

福島県特別支援教育研究会視覚障害専門部 平成27年度 研修会

視覚障がい児童生徒の
自立と社会参加を目指した
よりよい支援・指導の在り方

～個々の視覚障がいに応じた支援・指導に焦点を当てて～

期日 平成27年8月19日(水)

会場 福島県立盲学校

元北海道立特別支援教育センター所長 鈴木重男

目次

午前 盲教育とは

- 1 盲教育の専門性
- 2 歩行の基礎的指導
- 3 文字の基礎的指導
- 4 学校と家庭の連携・共働

午後 盲学校教員として

- 1 耳で見る
- 2 手で読む
- 3 頭で歩く
- 4 インクルーシブ教育への対応等
- 5 盲学校教員として

盲教育とは

1 盲教育の専門性

本稿における盲児と盲教育

盲 児

環境情報を視覚以外の触覚や聴覚等で
収集している幼児児童生徒

盲教育

盲児のために特別に配慮・工夫した教育

盲教育の専門性とは

盲教育の専門性

盲児のために特別に配慮・工夫した教育を、盲児個々の状態等に応じて、計画、実行、評価、改善を繰り返して、盲児の持てる可能性を可能体にするこのことができる力、家庭・寄宿舎と共に連携・共働して盲児の力を培うことができる力

教育内容：同一性

生徒指導内容は、トップダウンで
学習指導内容は、ボトムアップで

家庭と

障がいの有無を超えた不易の内容

教育方法：個別性

分かる喜び、自己肯定感を
確かな累積で、成長の証を

家庭と

障がいの状況を踏まえた個別の方法

盲教育の専門性とは

学校が取り組んでいる専門性向上の内容

平成25年度全国特別支援学校長会研究集録（視覚障害61校）

取り組んでいる専門性	数
点字の活用	51
障がいの特性の理解	50
教科等の指導法	46
自立活動の指導	42
個別の指導計画	31
教育相談	31



視覚を活用することが可能な幼児
児童生徒への専門性 → 弱視教育の専門性

視覚を活用することが困難な幼児
児童生徒への専門性 → 盲教育の専門性

教育原理は共通

教育方法は独自

盲教育の専門性 幼児自答生徒の困難点の軽減

盲児の学校生活上の3大困難点

- ①歩行 ②日常生活行動 ③文字の処理



盲教育の具体的な専門性として、日常生活行動を身に付けさせる指導、教科等学習の基盤となる「歩行指導」と「点字触読指導」、「体育指導」を特に挙げることができる。

水本剛志先生の力

耳で見る

- ・壁から1m前で止まる。
（靴とスリッパ）
- ・落とした効果を拾う。 など

手で読む

- ・点字を速読する。
- ・点字を裏から読む。 など

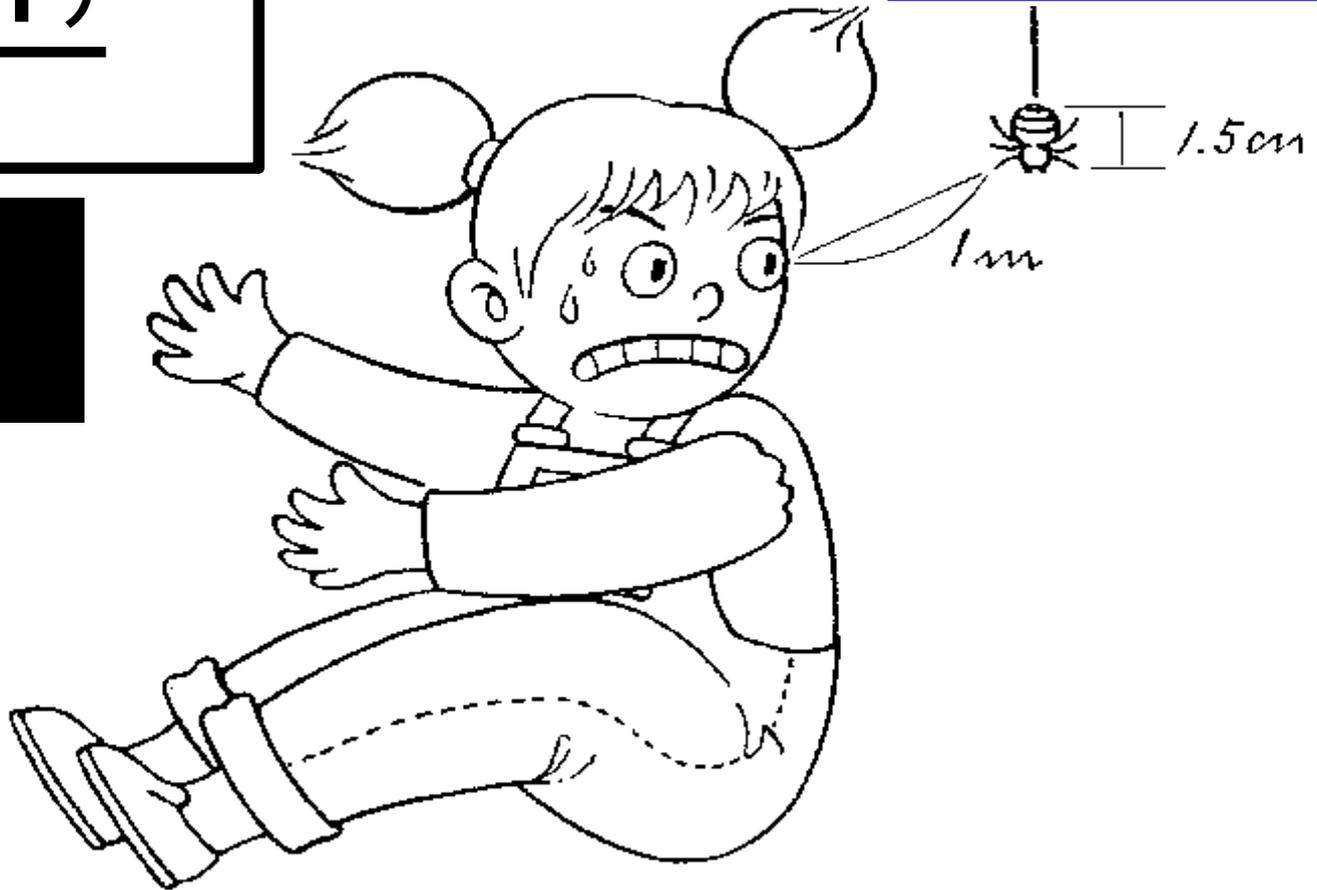
盲教育の専門性 視力の推定

(0.3×見分けたものまでの距離m単位)
(見分けたものの長さmm単位)

障がい特性
教科の指導
教育相談

$$\frac{(0.3 \times 1)}{(15)}$$

推定視力
0.02



盲教育の専門性 行動観察

「ボール探し」4.5cm大の黒ボール

(視力程度と視野、スキャンニング)

(0.3×1)

(45)

**推定視力
0.01程度**

**指の太さ
(15mm)**

腕の長さ

(0.5m)

**眼前50cm指
数弁=0.01**



クリアファイルを使って、視力を減退させ、そばにあるものなどを使って、視力程度を推測する。

その結果を、盲児の視力シュミレーションで活用する。

盲教育の専門性 触察の基本

植物は根っこから、
上に向かって

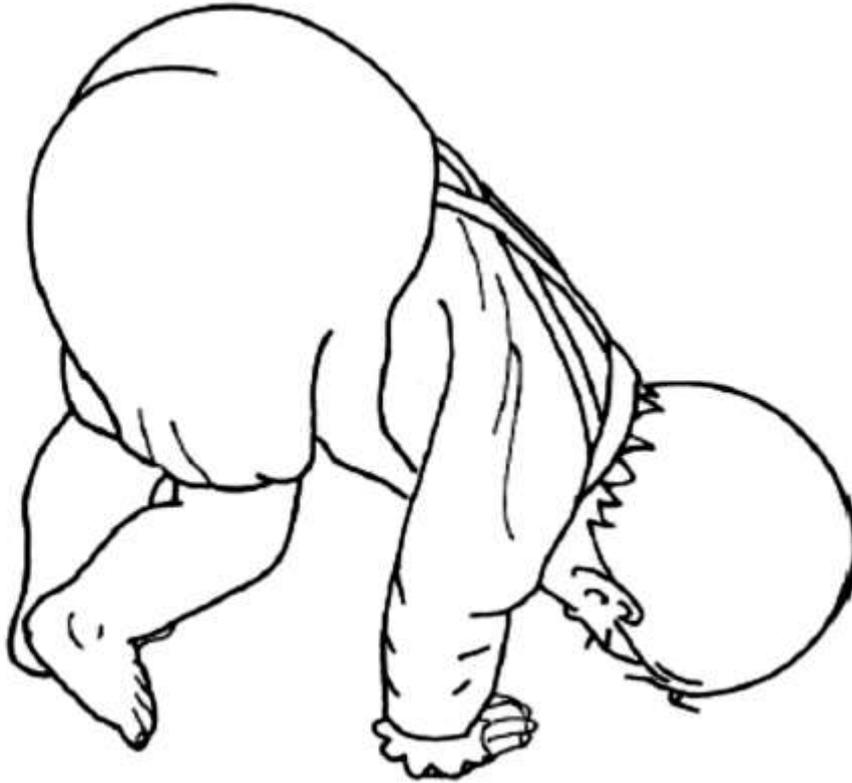


動物は、鼻から、
毛並みにそって



2 歩行の 基礎的指導

歩行の基礎的指導



- 1 実態把握
- 2 知能の程度
- 3 両手介助の歩行
- 4 前方音声の歩行
- 5 階段歩行
- 6 前方音源の歩行
- 7 また、頭で歩く子が
- 8 知能の程度
- 9 その後

発達は**学習**を支え、**学習**は**発達**の根を広げる

歩行の基礎的知識



ボディイメージ

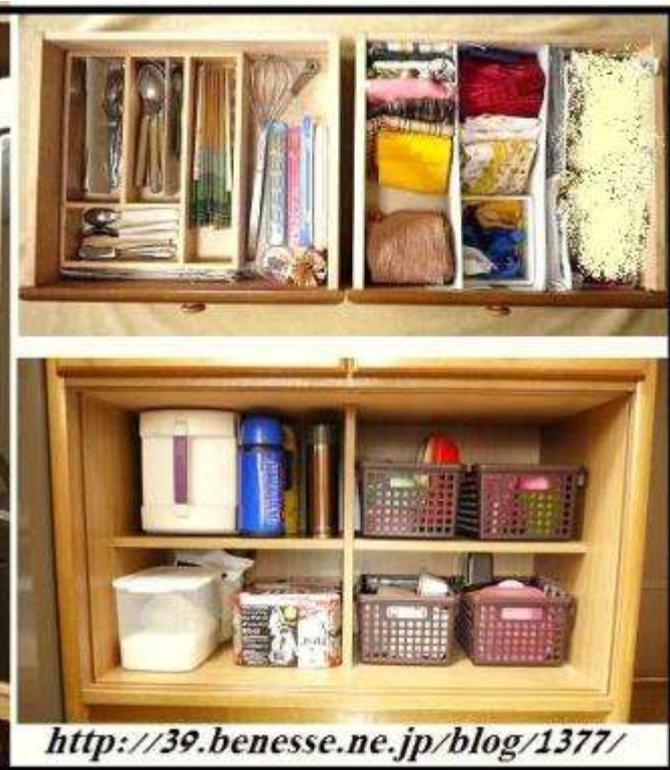
- 部位名
- 動作名
- 絶対的方向
- 相対的方向

お人形遊びは、ボディイメージを強化し、相対的方向も理解させることが可能になります。

歩行の基礎的知識



**マトリクス構造
格子地図**



靴箱、道具箱、整理箱は、地図と同じ。教師・親は、生活用品・教材等は、固定した道具箱・整理箱にしまって、幼児に出し入れをしてもらう。布・点字で印を付けてもよい。

歩行の基礎的知識



工夫次第で
福島県内地図も

会津 中通り 浜通り

歩行の基礎的知識 (耳で見る)

◎音源定位

直接音を両耳の時間差、強度差で音の発している物体属性と距離・方向の認識

◎反響定位

反響音を過去の体験と照らし合わせて反響している空間の属性と距離・方向を認識

アイマスクを着けて、壁に向かって歩く。壁にぶつかる前に立ち止まる。



白杖探索 白杖は、何かを見つけくれる。白杖は、音を出してくれる便利なツール



釣竿



バドミントン
ラケット

筋力の低い盲児に対して、通常の白杖は重たすぎることから、特に幼児に対しては、手元が太く、先が細いテーパ構造の白杖を特製する。

白杖

歩行指導の基礎的知識

道路交通法

白杖の携帯義務

第十四条 目が見えない者は、道路を通行するときには、政令で定めるつえを携え、又は政令で定める盲導犬を連れていなければならない。

白杖の遵守義務

第七十一条 二 目が見えない者がつえを携え、若しくは同項の規定に基づく政令で定める盲導犬を連れて通行しているとき、一時停止し、又は徐行して、その通行又は歩行を妨げないようにすること。

- ①視覚障害者のシンボル機能
- ②路面(凹凸等)情報の入力機能
- ③下方障害物の防御機能

接地角度	白杖の落下力	下方物体の検出	腹部防御の高低	下方物体発見距離
30度	大	小	低	遠
45度	中	中	中	中
60度	小	大	高	近

タッチ・テクニック

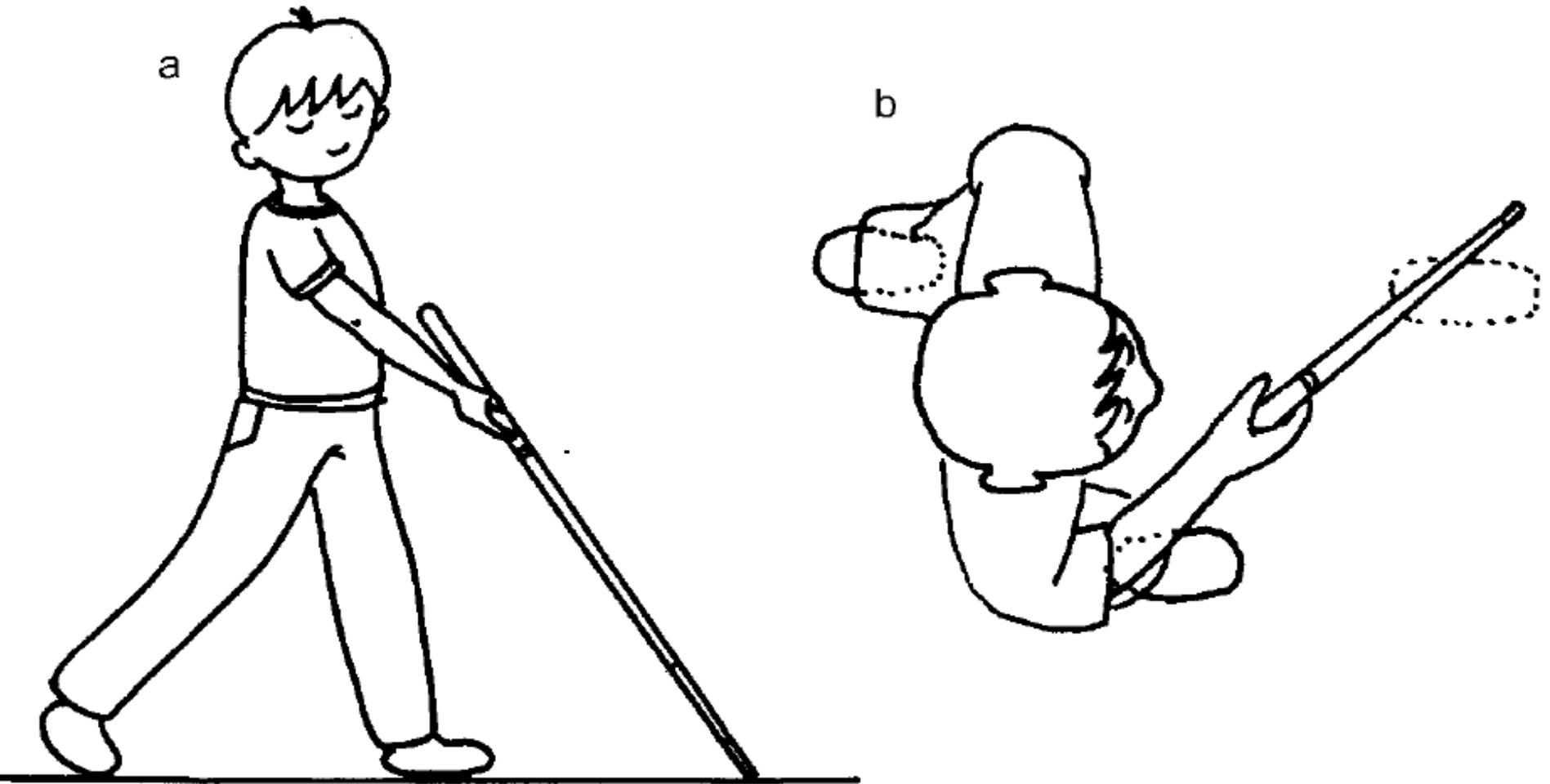


図 2-10 2点タッチ操作の白杖歩行

ダイアガナル・テクニック

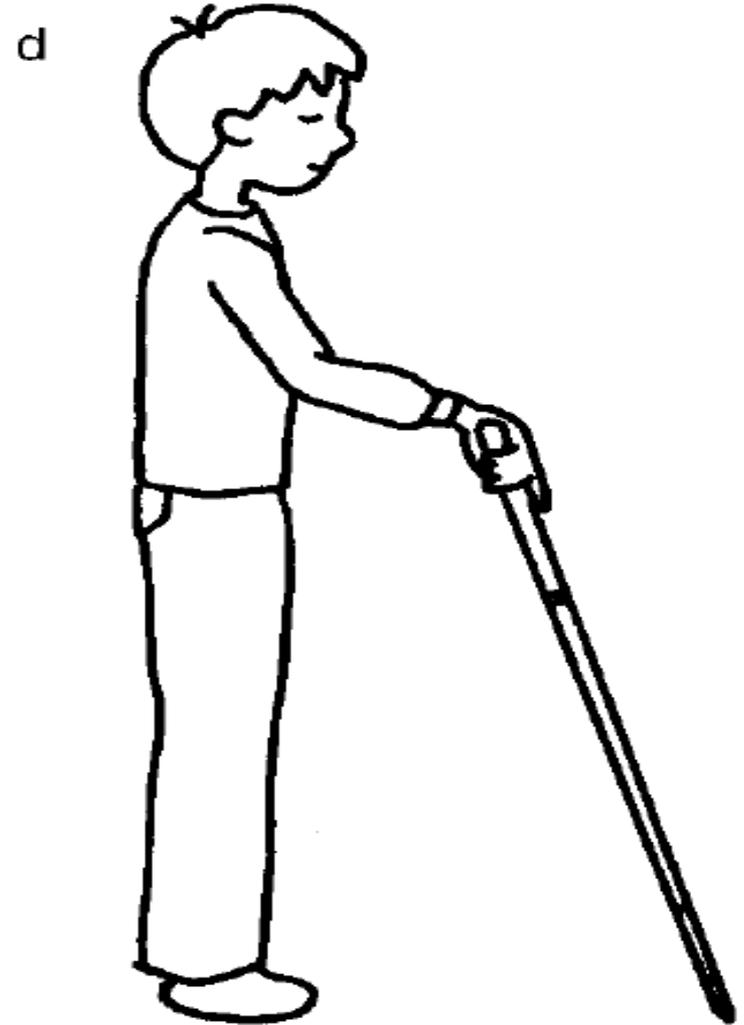


図 2-11 ダイアガナル操作の白杖歩行

盲教育の専門性 白杖を使ってみよう
2人一組になってください。

アイマスクで閉眼します。
白杖を使って、階段の上り
下りや廊下を歩いてみよう。

タッチ・テクニクとダイアガ
ナル・テクニクを使い分けて
ください。

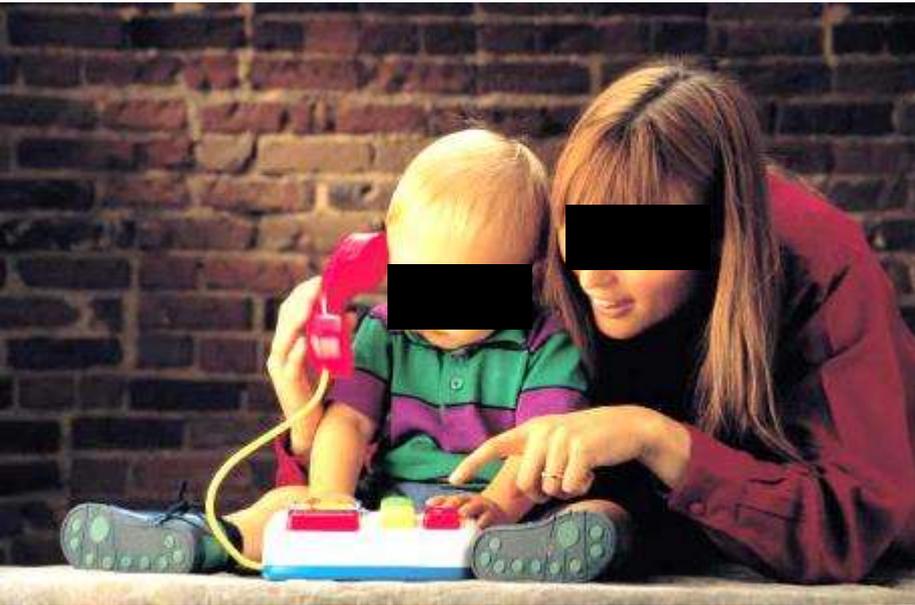
3 文字の 基礎的指導

点字の基礎的指導

食べ物や少々汚れ物でも何でも、触らせ、ぐちゃぐちゃにしたり、破ったりと、音と共に体感させる。

→ 硬い物・軟らかい物、重たい物・軽い物、ぐにゅぐにゅした物・ぎゅっと締まった物、ざらざらした物・すべすべした物、冷たい物・温かい物など

点字の基礎的指導



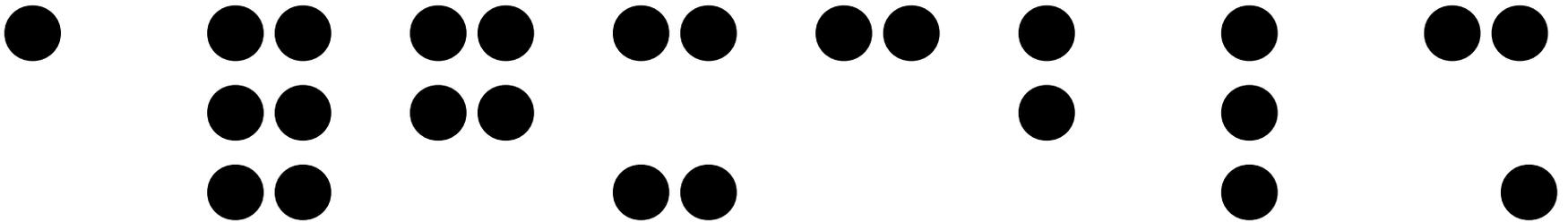
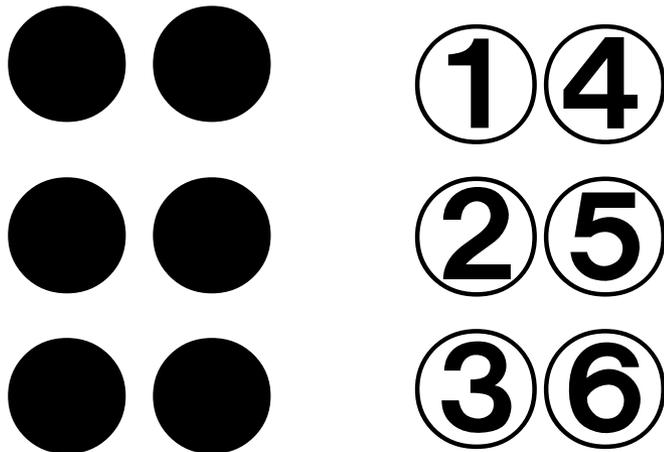
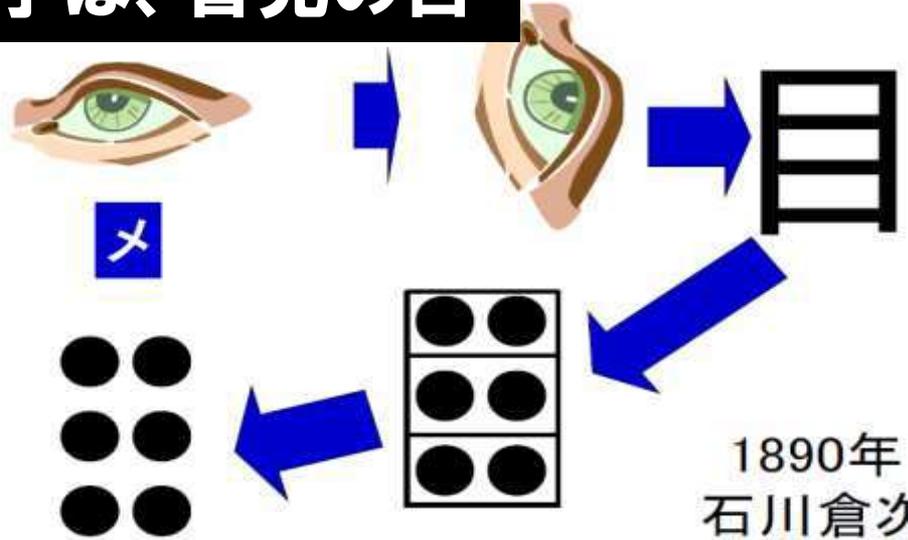
身体軸を合わせるため、盲児を抱っこなどして、盲児の手と重ねて、自分が触るように、盲児に触らせる。



柔らかく、しなやかな指使いと、手のひらも使った「こねる」「まるめる」などの動作も楽しみながら行う。

点字の基礎的知識①

点字は、盲児の目



ア メ レ フ ウ イ ニ ク

1973年事例 小学部1年 岩○さ○りさん 徳○学級

無意味つづりで触読できた文字

4/10 あ ふ め う い 5字 5/46 109%

5/6 は お る さ め い あ ひ こ み ふ め
わ な よ け む に を う く か

22字 22/46 47.8%

6/9 は お る つ や さ ろ ま め し え の い
あ ひ り れ こ み と た ら ふ め わ な ん
よ け む す に を ね え も き へ く か

40字 40/46 87%

(濁音 ず べ ど ば ざ ぶ ぎ づ OK)

点字の基礎的知識②



点字は、
左の人差し指で
触読できるように
指導する。
右手は、転写で使う。
速読するため、
両手読みを指導する。

幼児期からのパーキンスブレーラーによる触読・打字の 連動的指導

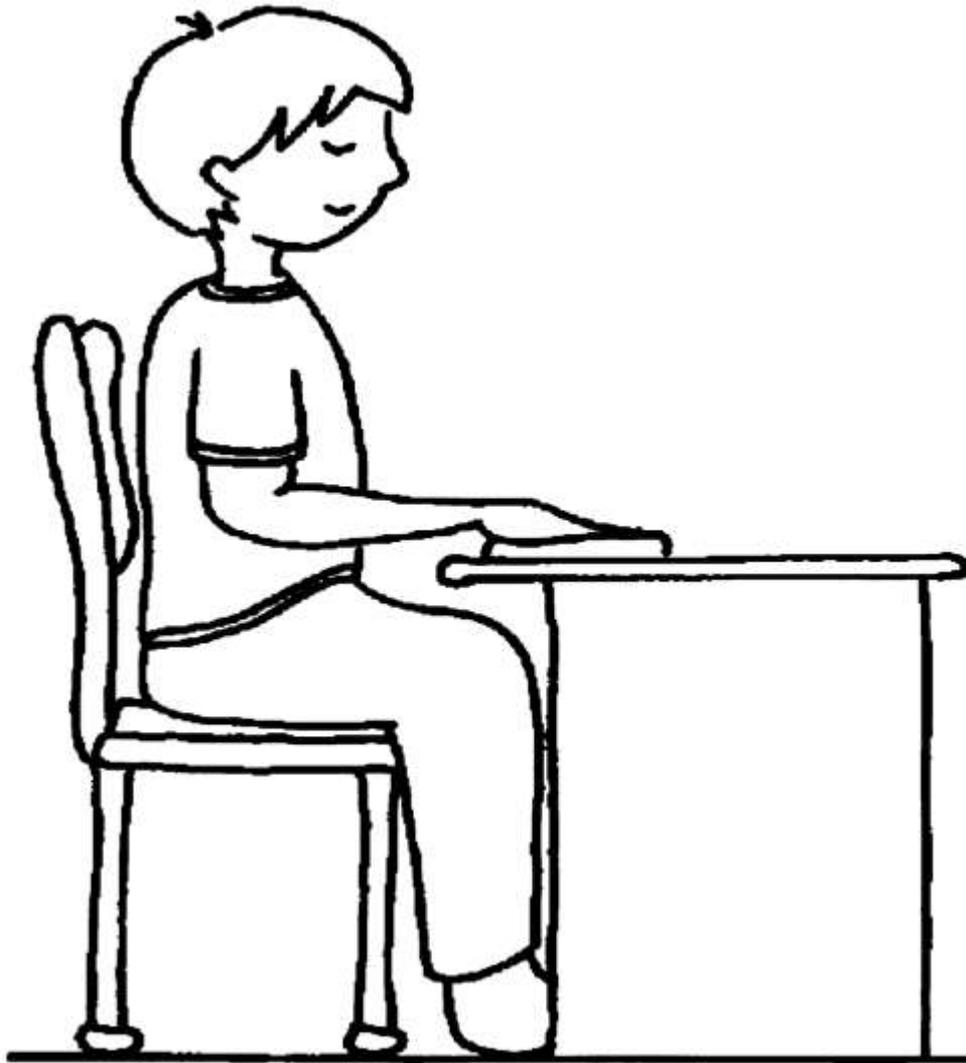


盲幼児でも指の間隔が狭くなり、かつ弱い力で打字が可能

パーキンス製片手打ちキーセット



足の裏を、床につける。膝は90度



- ・足・脚をブラブラさせない。
- ・聞き耳をつくらないよう、留意する。

**点字を指で読んでみよう
2人一組になります。**

**アイマスクを使います。
配布した点字シートを
読んでください。**

**アイマスクを使います。
配布した点字シートを
読んでください。**

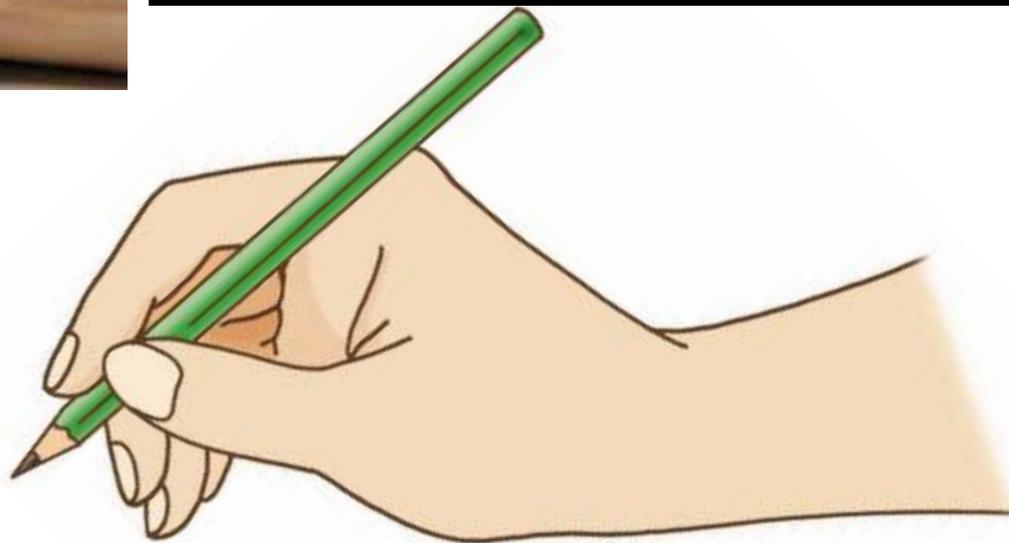
墨字の基礎的知識

お箸と鉛筆



盲児に筆記用具を正しく持たせるため、お箸を正しく使用することができるよう留意する。

日本のお箸を正しく持った時、下側のお箸を抜いた持ち方が、筆記用具の正しい持ち方になっている。



4 学校と家庭の 連携・共働

盲教育

学部

内容は、基礎基本
方法は、アクティブラーニング

毎時の指導計画・評価

家庭・寄宿舎

内容は、応用・活用・発展
方法は、実際生活で実施

学校で、できたことを家庭に、密に連絡して、家庭とともに誉めて育てる → 自尊心、やる気、努力する



好ましい行動
→ 誉める

好ましくない行動
→ 無視する



家庭の基本 夫婦仲良く 養育を分担

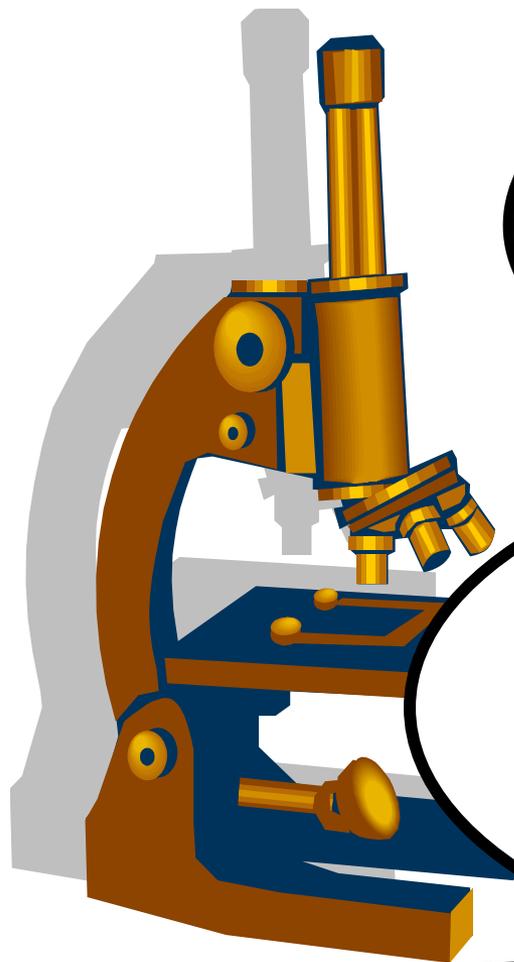
福井大学 友田明美教授は、児童虐待の種類により、特定の場の脳が委縮すると言っている。 → 夫婦喧嘩や盲児への言葉の虐待は、大脳聴覚野を変形させる恐れがある。

特に母親からは、盲児の養育に参加しない父親の不満がときとして聞こえてくる。

盲児は、耳から入ってくる両親の話に特に敏感である。したがって、夫婦間の言い争いなどを止めて、夫婦仲良く、お互いを尊敬し合って生活することが、盲児の成長の糧になる。

母親は食事、トイレ、着替えなど身辺自立などの内容に関することを受けもち、父親は外の散歩や体を使ったダイナミックな動きでの遊びを分担するなど、父母で役割を分けて養育することが何よりも重要である。

学校は基礎基本、家庭は応用・活用・発展



子どものできることを
一生懸命、探す、できたら認め、
誉める

できることを、
さらに、できるように
応用し、活用し、
発展させる

家庭
と
共に

最も良い教師は、子どもと共に笑う
最も悪い教師は、子どもを笑う

**質問・疑問タイム
?**

**盲学校の全ては、
視覚障害児・者の為に**

午後

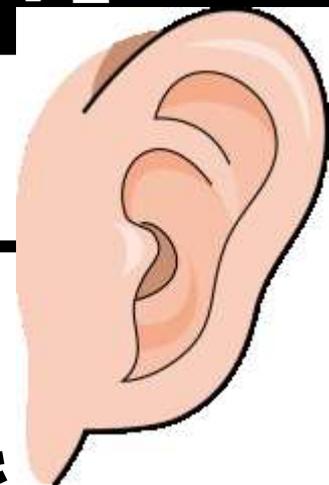
盲学校教員として

1 耳で見る

(直接音と間接音の理解)



音の活用 「直接音」「間接音」



◎音源定位「直接音」

直接音を両耳の時間差、強度差で
音の発している物体属性と距離・方向の認識

◎反響定位「間接音」

反響音を過去の体験と照らし合わせて
反響している空間の属性と距離・方向を認識

公共空間における音環境のユニバーサルデザインに関する研究
2006年12月 船場 ひさお(フェリス女学院大学)
～白杖歩行者の音の利用～

アンケート対象者 20歳～70歳 平均52歳
全員視力 0程度 男子53名 女子50名 計103名

質問事項	強くそう 思う	どちらか といえば そう思う	思わな い	その他
街頭の音は場所の目 印になる 直接音	70%	20%	7%	3%
周囲の人の出す音を 聞いている 直接音	57%	24%	15%	4%
杖の音で周囲に何が あるかイメージしてい る 間接音	41%	30%	24%	5%

「耳で見る」

サブリエ・テンバーケンさん(Sabriye Tenberken 1970年生まれ)は、チベットのラサに、1998年、盲学校を創設し、チベット点字を創案した全盲のドイツ人女性。著書「わが道はチベットに通ず」には、直接音や間接音、なおいなどから得られる環境が、視覚的な情景として表現されている。

「わたしは非常にビジュアルな人間」と題した文章の一節

しばしばこう思われている。盲人は自分一人では状況の見当をつけられない、と — まるで視覚を失うことによって、まわりの世界にたいするイメージもすべて失われるかのように。

しかし実際には、目で知覚できなくなったものを、他の感覚が大幅に補ってくれる。盲人は聴覚、嗅覚、触覚のシグナルを利用して、閉ざされ空間や街路で状況の見当をつける。

なじみのない環境のなかで、とくに重要なオリエンテーションの補助手段は盲人用の白杖だ。これで盲人は自分の前にある道を触診できる。杖の先を振り子のように揺らして地面の上を滑らせる。この摩擦がつぎの一步に必要な情報をすべて伝えてくれる。道はぬかるんでいるか、石ころだらけか、砂質か、平坦か否か、それを盲人はこの振り子のテクニクだけで知る。そのうえ音響の情報も加わる。杖先の摩擦は音をたて、それが建物や対象物からさまざまなかたちで撥ね返ってくる。たとえば狭い小路を歩いていると、この反響が、側面は石や木材の壁なのか、藪や樹木なのか教えてくれる。いつも通っている。バルコルから盲学校までの道を、わたしはつぎのようなやり方で歩いている。わたしはその道を、開かれた広場の端からはじめる。それが広場だということは、聞こえる声の距離の差異でわかる。近づく声もあれば、遠ざかるものもある。たえまない噴水の音はまったく変わらず、反響がない。

つまり立てこんだ家並みの壁から撥ね返ってこない。わたしの右に自動車が往来する道路があり、それがさしあたりガイドラインになる。わたしは広場を横切る。右の道路と等距離を保つよう注意しながら。

いまわたしは、ずらりとならんだ屋台市場にむかっており、ここでは中国人の商人が声をはりあげて果物を売っている。夏はリンゴと梨、冬はオレンジとグレープフルーツの匂いが鼻に立ちのぼると、客の邪魔をしないよう慎重に右に転じて、道路にむかってすこし歩く。

道路のすぐ近くを、ふたたび自動車の騒音を右に聞きながら、さらにまっすぐ歩いていくと、杖が歩道の縁石にあたり、群衆が周回していなければ、これが新たなガイドラインになる。それはわたしを導いて、道端に屋台をならべた靴屋の前を通りすぎる。職人たちのハンマーの音と、鼻をつく革の匂いでそれがわかる。

環境把握 水本先生の感じ方

①壁などの物体の音が近づくとどのような変化として認識しているのか。

音なのかどうか分かりませんが、物が近づいてくるように感じます。音の響きの変化なのか、空気の流れの変化なのか、何かが迫ってくる感じがします。体調によっても良く聞こえる日と、調子の悪い日があります。

②広い教室と狭い教室の違いをどのように見分けているのか。

これは音の響き方だと思います。絨毯がひかれていると、広さの判断が鈍くなります。よく壁を確認させていただき方がおられますが、予想を超えて広がったりすることはあまりありません。

③人と電信柱の違いは、どのような音の違いなどで認識しているのか。

時々電信柱に謝ることもありますが、太さ、高さ、動かないこと、何も音を出さないことなどでしょうか？

環境把握 水本先生の感じ方

④廊下を歩いていて、ドアの空いているのをどのようなことで認識しているのか。

空気の流れの変化だと思いますが、壁と隙間の空いているところは音の抜けがよくなるように感じます。

⑤その他

蛇足ですが、パソコンやスマホの普及でヘッドホンを使用する機会が増えており、聴覚がどんどん低下するのではないかと不安に感じています。極力小さな音で聴くようにしています。

障害物知覚に関しても、おでこにセンサーがあるのではないかと考えています(過去にどこかで聞いたようにも思います)。ボーシ・マフラー・メガネ・マスクなどを着用すると音の聞こえが悪くなるように感じるので、極力着用しないようにしています。

盲児の空間認識の知識

1 顔面視力 (Facial Vision または Facial Sighted)

盲児はなぜ前に壁があることやドアの入り口が分かるのでしょうか。デイドロDiderotは、1779年、盲児が視覚に頼らなくても上手に障害となる物体を避けて歩くのは顔面神経と末梢器官の感度の増進とした。

2 反響音による障害物知覚 (Obstacle Perception) = エコー・ロケーション Echo Location

1944年、アメリカのコーネル大学のスーパ (Supa)、コチン (Cotzin)、ダレンバッハ (Dalenbach) らは、各種の実験で、聴覚的手がかりがなければ、障害物知覚はなされないことを記録した。コウモリやイルカは超音波を発し、その反射音を聴いて物体(エコー・ロケーション Echo Location) を知覚していることが分かってきました。

盲児の歩行姿勢、歩き方の特徴

安定性	重心を低くし膝を屈曲させ、手を前方にして足裏全体で歩く・走る ので、多少の路面状況の凹凸などの変化にも対応した 安定的な歩行 ができる。
安全性	物にぶつかりそうになった場合や直ぐに立ち止まる必要がある場合は、 後傾姿勢 になりやすいため、歩行での 安全性が確保し易い 。
音源	バタバタ音を立てて歩く ので、盲児自らで音源をつくって、何か障害となる物体があった場合、その物体から反響してくる音を得やすくし、その反響音による 物体の定位(エコー・ロケーション:Echo Location) が行い易い。

室内環境の把握～様々な方向から反響～ 外の音、冷蔵庫や蛍光灯等から継続的な直接音



盲児の耳で見る力をつける工夫

① **盲児のエコーロケーション
能力を高める工夫を協議**
6人1グループ 15分間

② **グループ報告**
各グループ代表者が報告

Dr. Leslie Kay
1950年代 イギリス
超音波ソナー学者として、潜水艦や魚雷探知、鉱山開発に尽力

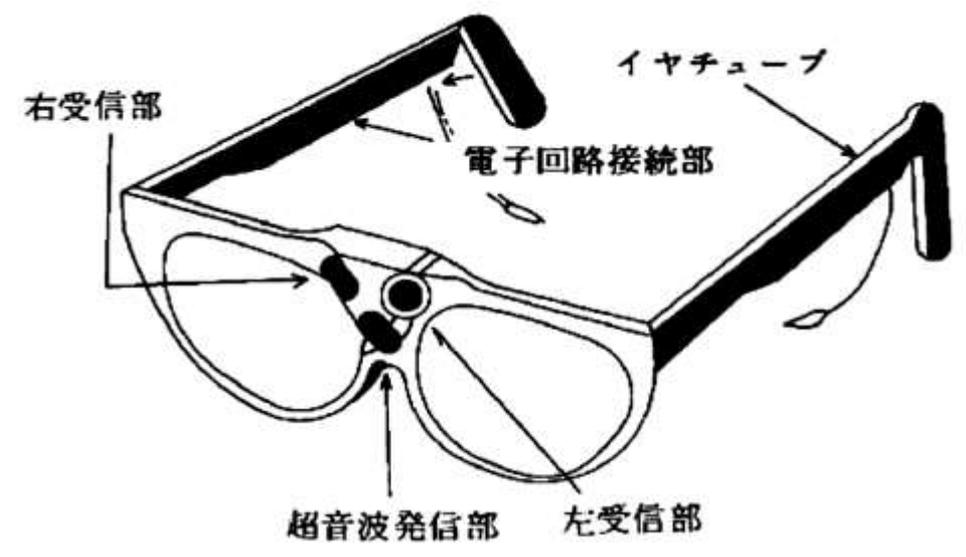
Sonic Torch
ソニックトーチ



Leslie Kay 1965

Sonicguide™

Leslie Kay 1969



K-Sonar™

Leslie Kay 2003

1979年の指導事例 MATHUURA Takashi (Born: 1964)
1977 VHLフォン・ヒツペル・リンドウ病で片眼摘出、片眼視力0

1 指導期間 1979年 6月19日 ~ 10月22日

指導内容 基本的指導とソニックガイド音と実物との対応指導

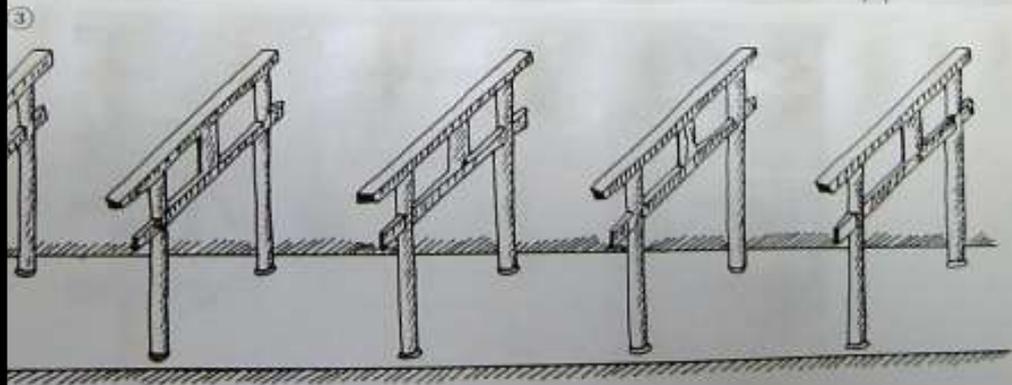
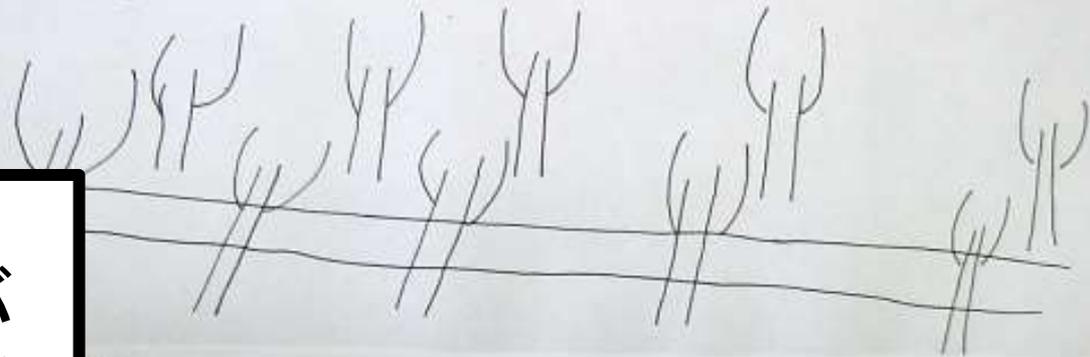
2 指導期間 1979年10月24日~

- ・コントロールした限定した環境を、納得がゆくまでソニックガイドで観察
- ・観察中の環境物体に体の一部を多少なりとも接触した場合は、観察の場所を変更
- ・レーザーライターで描く際、一切の示唆を与えず、自由に想起させて描写
- ・描写後に描いた絵の説明として、ソニックガイドで知り得た環境情報をカナタイプライターで記述するとともに、描いた絵を口頭でも説明
- ・レーザーライターへの描写及びカナタイプライターの記述は、観察場所から学校に戻って実施、観察後30分以内。

稲荷神社の鳥居の間を歩行観察



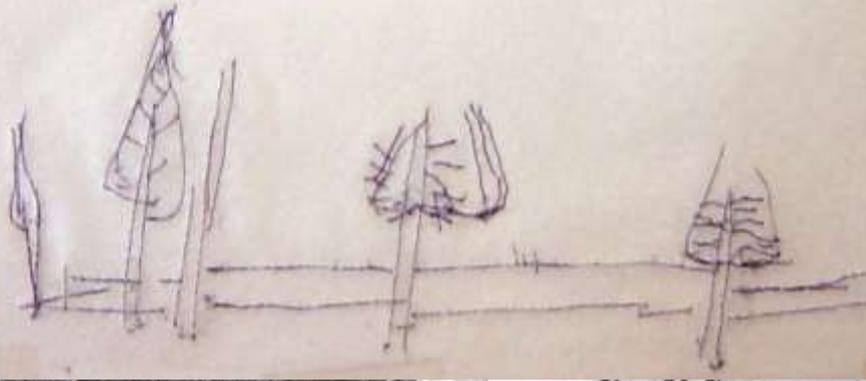
Fig. 6-①



ユキガ ツモリ ミチハバ
ガ セマク ナツテ イタ キ
ガ ミチヲ ハサミ ヘイコウ
ニ トウカンカクデ ゴウケ
イ 10ポン タツテ イタ

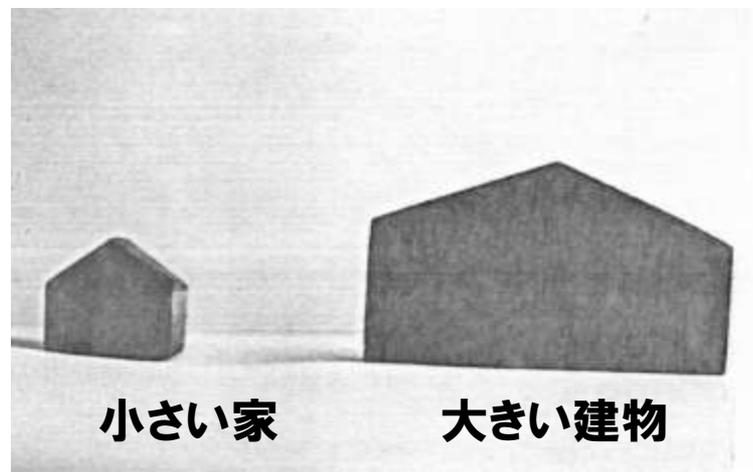
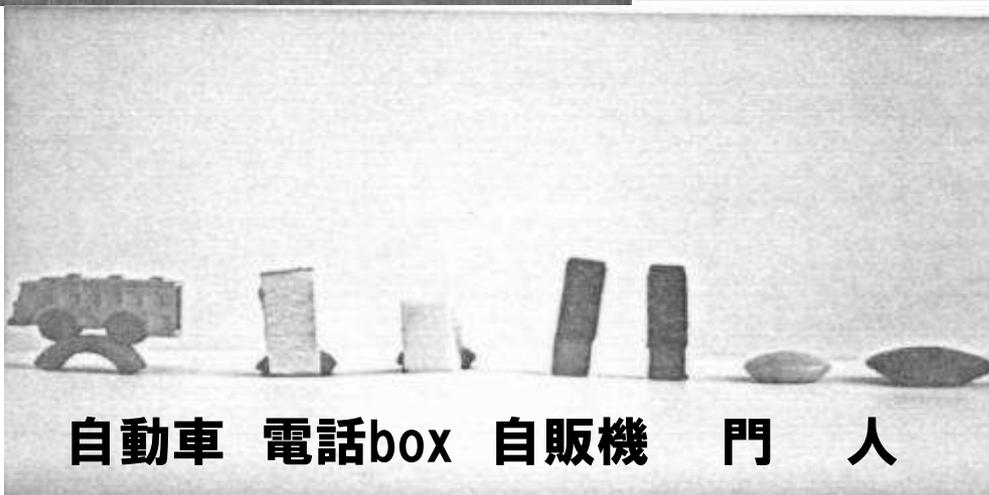
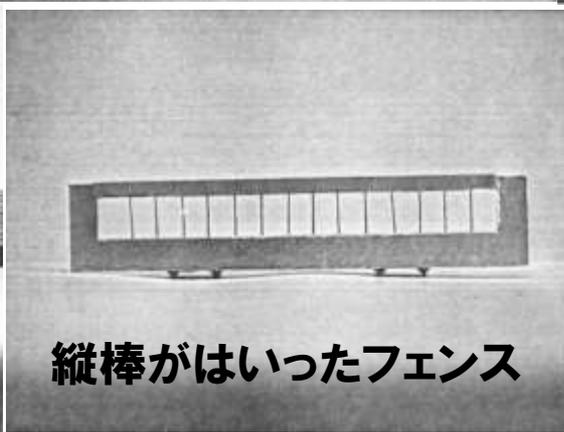
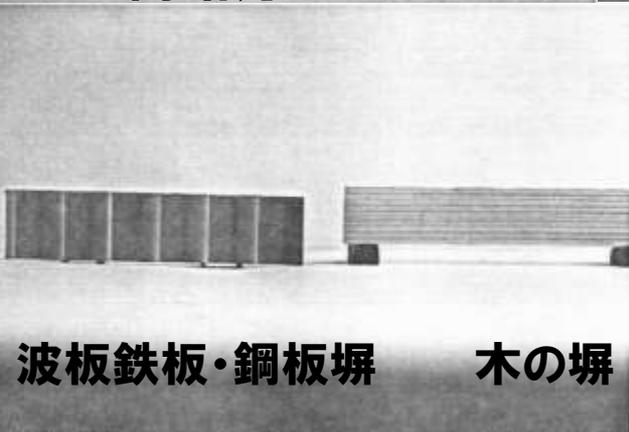
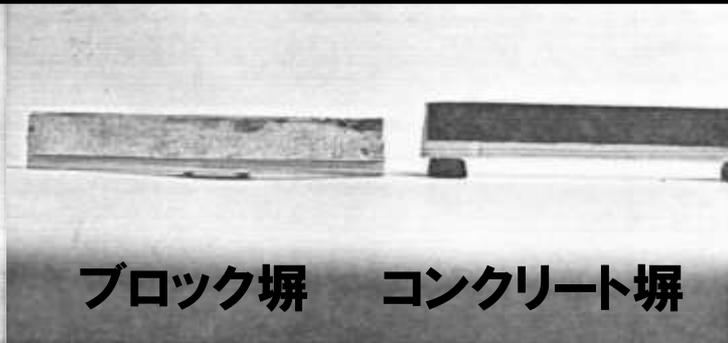
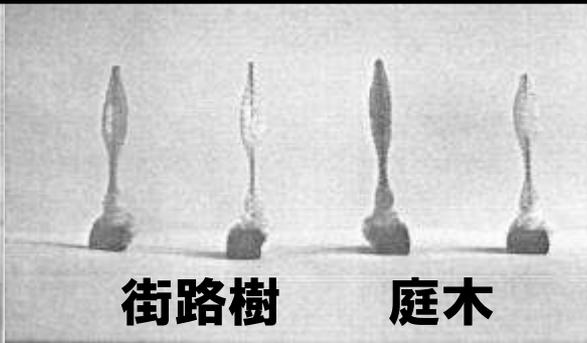
者歩道の区別のある歩道の真ん中を歩いて、左右の環境構成を観察

ジャドウ ガワニ ガイロ
ジュガ トウカンカクニ 4ホ
ン アリ アルキ ハジメタ
トコロカラ スグノ ガイロ
ジュノ スグソバニ デン
チュウガ タツテ イタ ハン
タイガワハ コシグライノ タ
カサニ イシノ ヘイガ ツツ
イテ イタ



ジャドウ ガワニ ガイロ
ジュガ トウカンカクニ 4ホ
ン アリ アルキ ハジメタ
トコロカラ スグノ ガイロ
ジュノ スグソバニ デン
チュウガ タツテ イタ ハン
タイガワハ コシグライノ タ
カサニ イシノ ヘイガ ツツ
イテ イタ

ソニックガイド音で環境物体を認識しているかどうかを評価する方法 ミニチュアで環境を構成し、口頭でさらに説明



**ソニックガイド音は、同じ物体でも、
静止音と歩行音が異なっている**

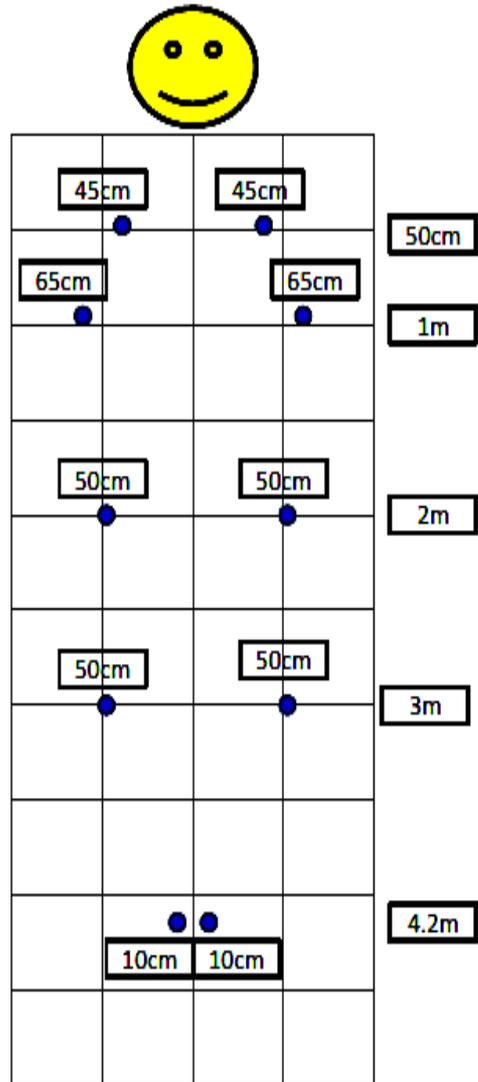


**この特性を活用して、環境の物体を推測することが
でき、環境状況をミニチュアで構成可能になる**

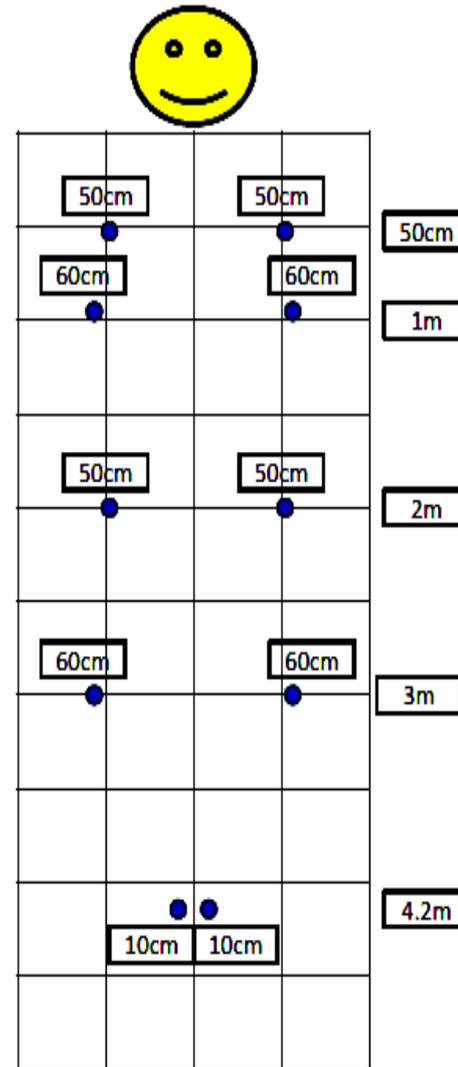
ソニックガイド音

**ソニックガイドの後継機である
Kソナーも同じ音色で表現**

直径2cmポールをKソナーが把握する範囲 トウモロコシ状



上下方向 奥行き4m,高さ1m



左右方向 奥行き4m,幅1.2m



距離と物体名

ビンビンビンと「三点ハ音」の
高さで聞こえます。

壁等までの距離1m



1000Hzの音が
ビンビンビン

距離と音の高さ

1m 1000Hz

2m 2000Hz

3m 3000Hz

4m 4000Hz

Kソナーの 実演

材質と形状

静止音と
歩行音の
音色の組合せ

超音波
が凸部で
反射、
ブォヨと
反応する

静止音
リョン
リョン~

歩行中ブォヨ
ブォヨ!!!~



環境構成物への静止音と移動音のマトリックス

		静的状態の擬声音					
区分		ピン～	ピン～	リン～	リンシュ～	シュー～	シュー～
動的 的 状 態 の 擬 声 音	ピンピン!～	標識 街灯 ポール	コンクリ ート電柱				
	ジョアジョア～		トタン看 板	モルタル 塀 レンガ壁			
	ピンピン!!!～		コンクリ ート塀(つな ぎ有り)		金網フェ ンスナイロ シネット		
	ビュウビュウ～			ブロック 塀			
	ブヨブヨ!!!～		工事用鋼 板防護壁				
	シュフイン シュフイン～			波型トタ ナ塀	金属フォン ス アルミフェ ンス		
	ビュフビョフィ						
	シュアシュア～						多種樹 木の垣
	シャアシャア～		ビニール シート	石垣	粗いハケ 塗りの塀	密生し たの生け 垣	雑草の 土手

Kソナーの活用 遊びから

1 ポール、白板、椅子、先生配置

① ② ③

2 射的遊び

2 射的

3 ジオラマ作成

3ジオラマ

4 車いすでの移動

4車いす

Kソナーの事例 映像資料

- 1 車いす盲児の使用**
- 2 椅子と先生とポールの弁別**
- 3 ジオラマ基本練習①②**

2 手で読む



手で触察できない物、事象などの指導

触察可能な模
型化、動作化、
音・音声化を工
夫

- ①大きすぎたり、小さすぎたりして触察できないもの
(山、海、蟻、微生物等)
- ②遠方にあつて近づけないもの
(天体等)
- ③触ると危険なもの、壊れやすいもの
(炎、沸騰するお湯、シャボン玉等)
- ④気体の状態のもの
(雲、霧、虹等)
- ⑤動きのあるもの
(ふわふわ飛ぶ風船、ひらひら舞う落ち葉等)
- ⑥複雑すぎるもの
(設計図等)
- ⑦立体を平面で表したもの
(絵、見取り図等)
- ⑧色や光の情報
(それぞれの固有の色、きらきら光る海、光と影、虹等)
- ⑨運動・動作を伴うもの
(投球フォーム、ダンスなどの一連の動き等)

点字指導はトップダウン思考で 3歳で可能

鈴木ビネー知能検査項目

- 自分の鼻、目、口、耳などを指さし
- 皿・茶碗、箸、靴などの生活用品を弁別可能
- 自分の性別を理解
- 自分の姓名を口答
- 簡単な大小、長短、粗滑、○△□弁別が可能
- 「今日も元気です」などの口まねが可能
- 1、2、3、4、5など具体物の数唱が可能

日常生活行動レベル

- 1 スイッチの用途が分かり、各種スイッチのON、OFF出来る。
- 2 お人形さんの前後を理解して、いろいろな遊びが出来る。
- 3 粗滑、大小、温冷、軽重等の識別が出来る。
- 4 靴や皿等の日用品の用途と識別が出来る。
- 5 簡単な会話が成り立つ。

1973年事例 小学部1年 岩〇さ〇りさん 徳〇学級
無意味つづりで触読できた文字

4/10 あ ふ め う い 5字 5/46 109%

5/6 は お る さ め い あ ひ こ み ふ め
わ な よ け む に を う く か

22字 22/46 47.8%

6/9 は お る つ や さ ろ ま め し え の い
あ ひ り れ こ み と た ら ふ め わ な ん
よ け む す に を ね え も き へ く か

40字 40/46 87%

(濁音 ず べ ど ば ざ ぶ ぎ づ OK)

中途失明の方への指導事例

幼児期からのパーキンスブレーラーによる 触読・打字の連動的指導

片手打ちキーセットにより、
盲幼児の弱い指でも、通
常のようなキー操作がで
きる。

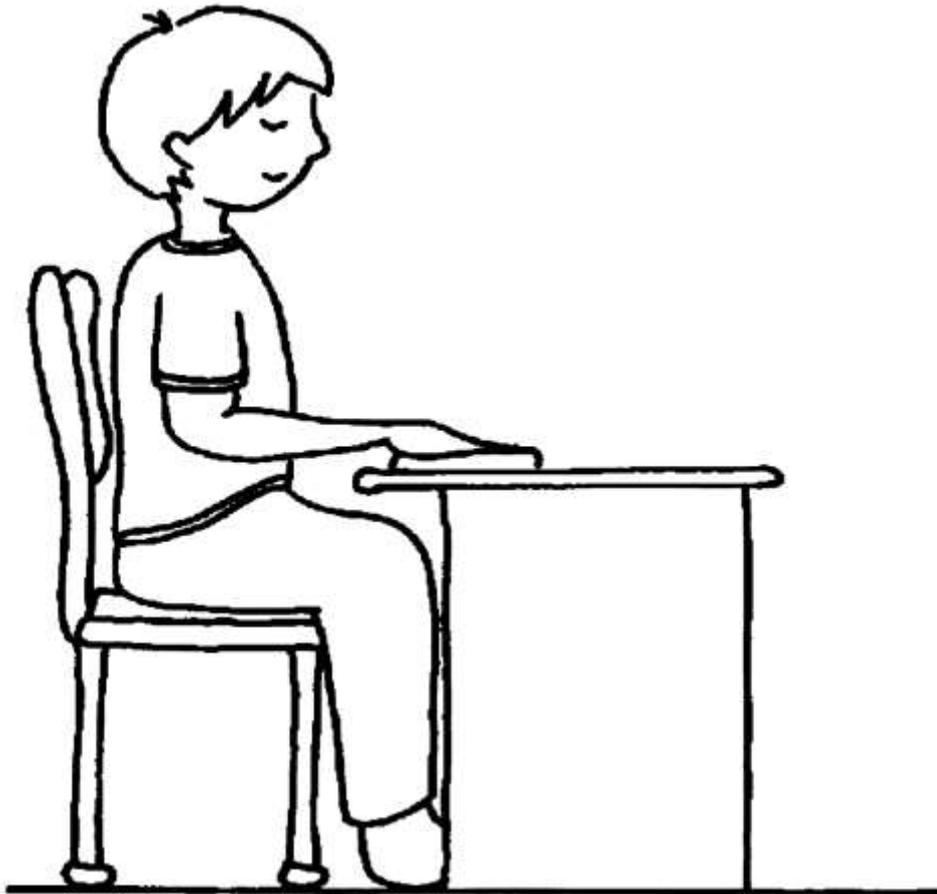


パーキンス製片手打ちキーセット

このキーセットがなければ、指を重ねたり、正しい指のキー配置ができない習慣がつく恐れがある。

点字触読時の留意

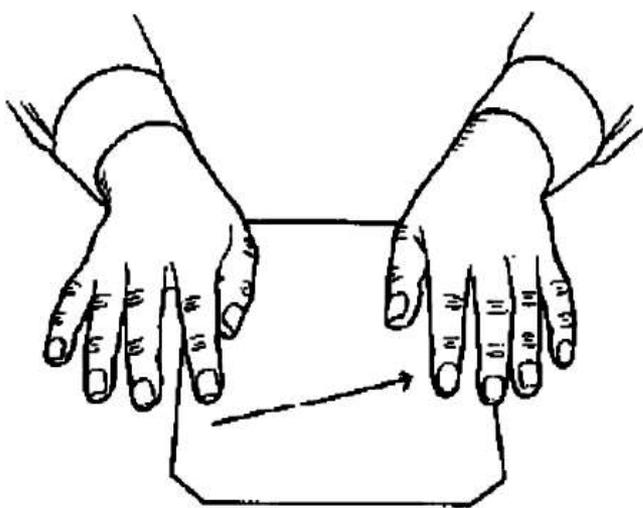
足の裏を、床につける。膝は90度



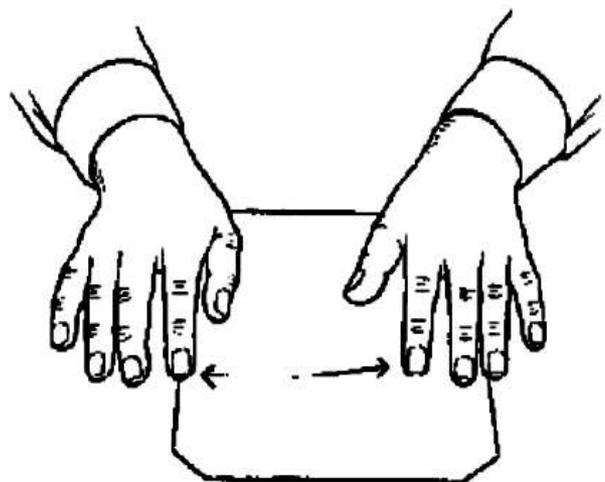
- ・足・脚をブラブラさせない。
- ・体がゆがまないよう、正しい座位姿勢を保持するよう、特段、留意する。

両手読み

A

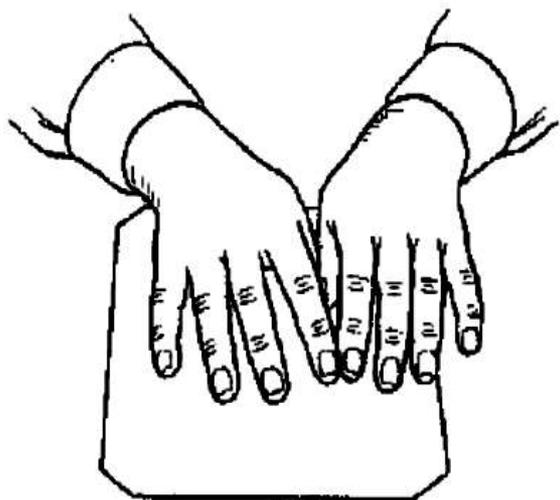


C

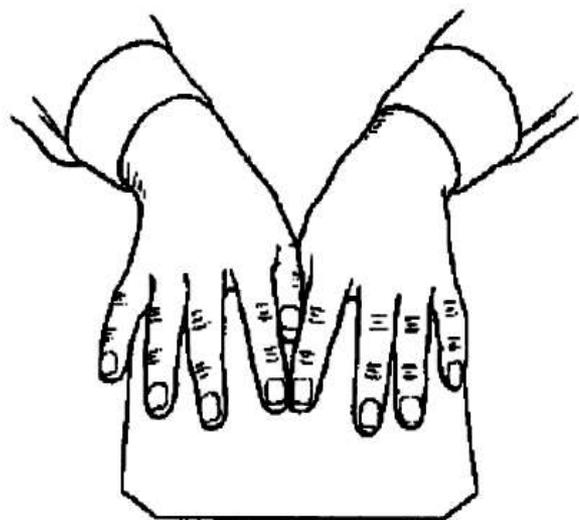


両手読みは、左右の手の分担による

B



D



点字触読の指導法

○五十音順や点字構成から指導する方法

- ・アイウエオ順の指導法
- ・リベット、などでの点字構成指導法

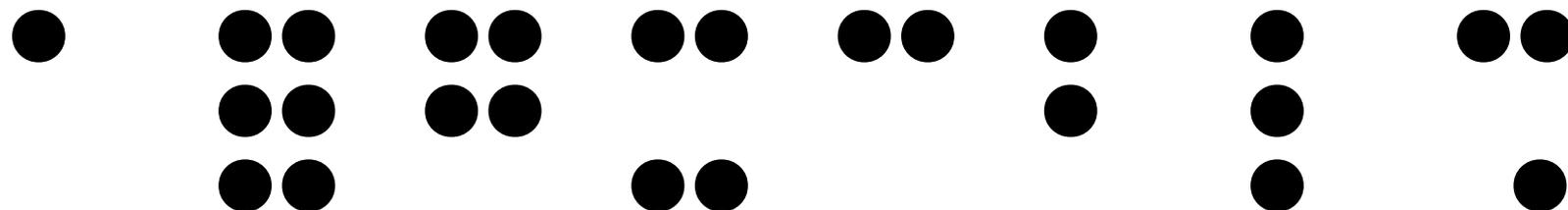
○認識しやすい点字から指導する方法

- ・点字の熟達者の分析による指導法
- ・未熟者の分析による指導法など

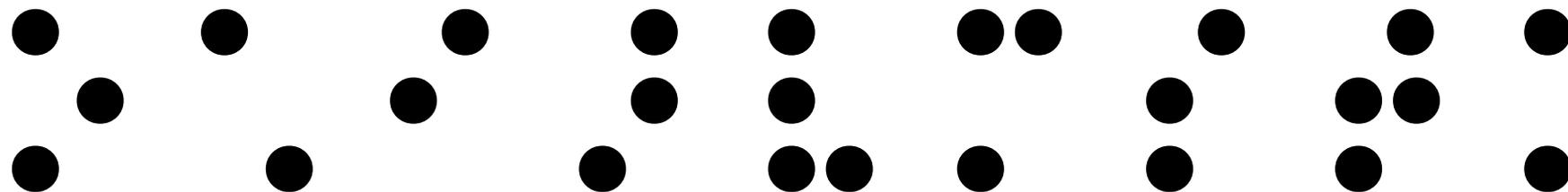
100人の指導者に100通りの指導法。
山に多様な登山道があるのと同じ。
指導法の正解は、ない。容易に指導で
きる方法を身に付けるだけである。



10文字以上の点字の触読

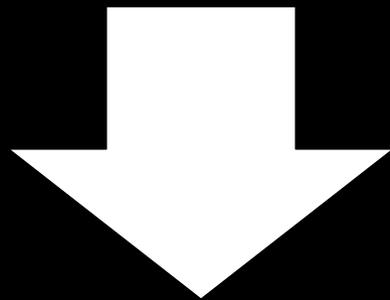


ア メ レ フ ウ イ ニ ク



コ カ オ ヨ ヒ ヌ ノ ト ナ

単一文字での
パターン認識を確実に



単語、短文で練習

くうふく こめ くう
かれい かい にく かう
あに おにに あいに いく

6点漢字

コンピュータの漢字入力手段として、6点点字から離れずに、漢字の音と訓の読みをもとに漢字を構成、東京の長谷川貞夫先生が考案。

特徴は、構成が規則的で、覚え易く、点字盤やブレイラーでも記述が可能である。

6点漢字 長谷川貞夫先生創作

例(音読みが1音節の場合)

56を前置して音+訓の最初の音節)

価 カ+あ

夏 カ+な



漢点字

盲人に日本古来の漢字を読ませることを目的として、普通点字と区別するため8点点字とし、偏と旁を基に漢字を構成、大阪の川上泰一先生が考案。

特徴は、漢字の成り立ちなど理解させることができ、漢字部分の検出がし易い。

漢点字 川上泰一先生創作

例(キは木と木偏)

木	林=木+木	森=木×3
●●	● ●	● ●
●	● ●	● ●●
●	● ●	●
●	● ●	●

例(フは女と女偏、ウは家とウ冠)

女	家	嫁=女+家
●●	●●	● ●
●●	●●	●● ●●
●●		●●

重複障害児への点字指導

北海道帯広盲学校 樋口実先生 (1970年代)

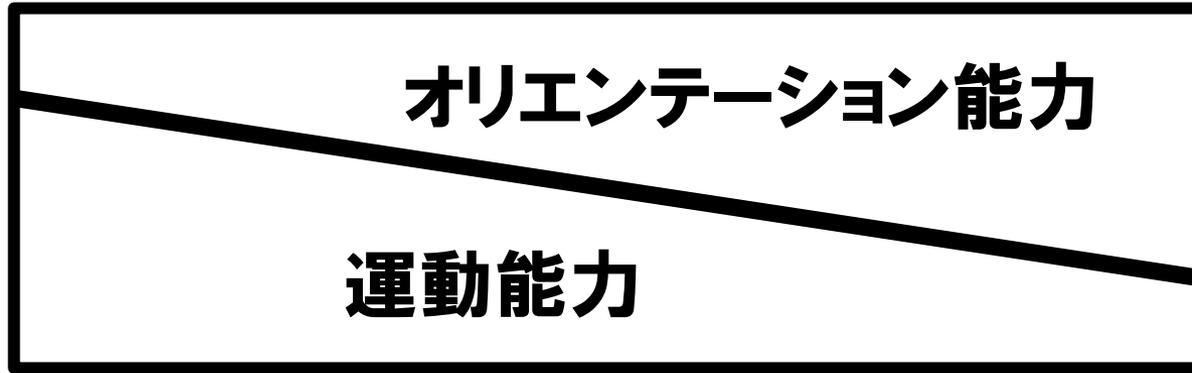
盲知的障害で言語をもっているものが「点字の読み」もできずに卒業してしまったり、というようなことのないようにしたいものである。

盲知的障害の子に大型点字から入る教師がいますが、これは無駄のことが多くかえって混乱を起こし、点字に馴れるまでに時間がかかる事が多く、下手をすると点字嫌いになって終る恐れさえあります。

盲知的障害の子には、それぞれの段階の点の大きさが理解できなかったり、抵抗になります。墨字と違って点字には字の大小がないことに留意したいと思います。

次に赴任したB盲学校では、重複障害学級の授業で点字を使う盲児が少ないので「どうして子どもたちに点字を指導しないのですか」と先生方に聞いてみました。すると「この子たちは、重複障害児でまだ点字を学ぶまでの発達段階には至っておりませんので、知的障害養護学校の教育課程に基づいた指導をしています」となんの疑いもなく話し、その後も点字を指導するそぶりがありません。私は、7月に入ってから、幼稚部と小学部重複障害学級の点字を使用すべき子どもたち一人一人に対して、一人に2時間程度をかけて、子どもたちの手を取って、ボディイメージや数概念、触覚による図形概念の形成状況などを調べてみました。すると点字をすぐにでも指導できる子、着席しての対面指導が可能になれば点字指導ができる子、手指の動きを統制できれば点字指導が可能な子などと判断できる子どもたちが多くいました。当然、この結果を担任に説明し、保護者にも伝えて、2学期からは、教育課程を点字指導と点字の触読を可能にする教科指導を行うよう抜本的に変更しました。

盲児の歩行 Orientation & Mobility



歩行の基礎能力

歩行意欲

↓

白杖操作能力

単独目的歩行を実現するための一能力(方法)

↓

安全で、確実な、単独目的歩行

米国: Orientation & Mobility

中国: 定向行動

その環境において、自分自身の位置を、常に、定位しながら、安全な方法で、目的地まで、移動すること

体の中の地図

手の中の地図

頭の中の地図

ボディイメージ

- 部位名
- 動作名
- 絶対的
方向
- 相対的
方向



点地図の作成
距離、方向、地名



Mental
Rotation
心的回転



環境を頭で歩くために

※ルート歩行は線的地図

頭の中に地図を作成
Mental Map

地図・操作・理解の指導

体の中の地図が基盤

環境を頭で歩くために

※ルート歩行は線的地図

**ルート歩行（独りでの目的歩行ができたことを
褒める→自信につなげる→自立への道に）**

（知的な遅れがある児童生徒でも対応可能）

**★ランドマークの連なりとして歩行（積雪時や大
雨時は、活用不能）**

線的地図

- ・点字で連なりを記述し、暗記する。**
- ・レコーダーに音声として連なりや周りの環境を
説明し、暗記する。**
- ・芝生・土・アスファルト、コンクリート、点字ブ
ロック等の路面・壁面情報を触察表記で標示**

頭の中に地図をつくる

ルートから2次元標記

体の中の
地図

手の中
の地図

頭の中
の地図

Body
Image

教室の
地図

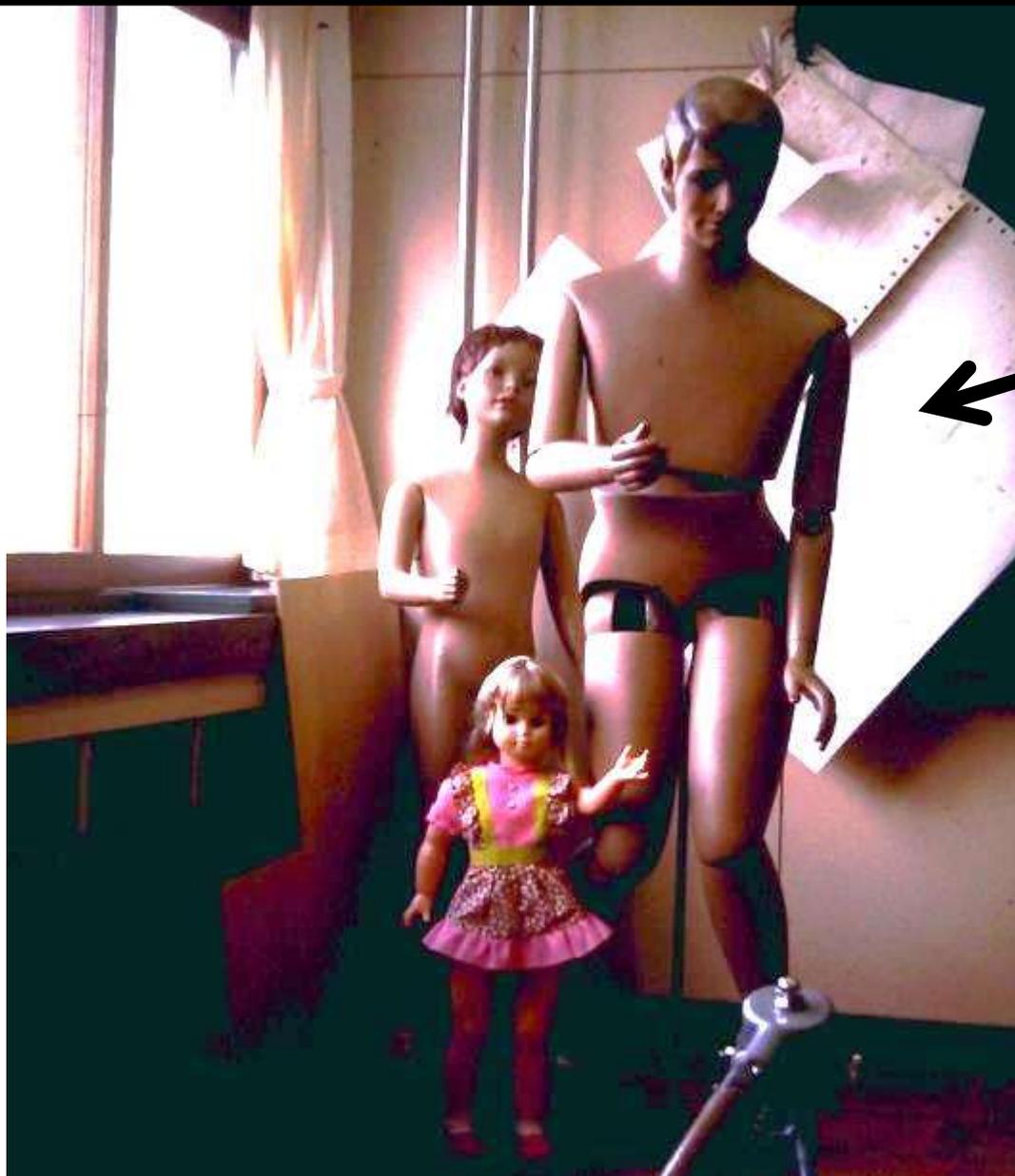
校内の
地図

学校敷
地内の
地図

学校周
辺等の
地図

Mental
Map

ボディイメージ 人形と可動マネキン



歩行指導の
終了後に
作成した
点地図



デ
ッ
サ
ン
人
形

ボディイメージ 体・顔 平面作成





ヘレンケラーと サリバン先生

平成20年3月6日
読売新聞

小学生程度のヘレン
ケラーが布でできた
50cm大の人形を膝の
上においています。

【ニューヨーク支局】米ボストンの「ニューイングランド歴史家系協会」は5日、目、耳、口が不自由な三重苦を克服したことで知られるヘレン・ケラー（1880～1968）の8歳時の写真＝AP＝が見つかったと発表した。1888年7月、ヘレンがマサチューセッツ州を訪れた際に、家庭教師アニー・サリバンとともに撮影されたものとみられ、同協会は「この時期の2人の写真としては極めて珍しいもの」としている。

○幼稚部

①ボディイメージ

- ・主要な体の部位名
- ・基本的な動作
- ・Laterality(絶対的方向)の強化

②軌跡 ・基本的な動作

- ・単純な歩行軌跡
- ・音源定位→音源移動軌跡

③地図

- ・室内ミニチュア
- ・トレーリングと防御
- ・障害物(空間構成物)の発見と賞賛

④白杖探索

- ・音で
- ・白杖からの感触で

[①乳幼児事例](#)

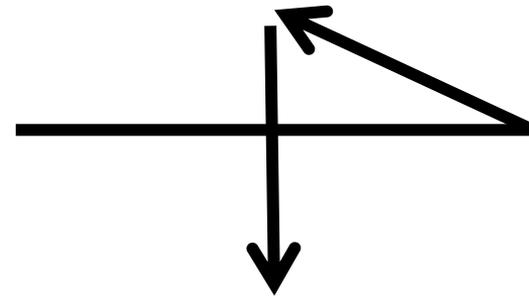
[②幼児事例](#)



介助歩行と歩行ルートの再現 遊びとして 介助歩行で図形歩行とその再現



積み木・フェライト磁石で、
歩行ルートを再現する。
歩行例



「THE IMPORTANCE OF ORIENTATION AND MOBILITY
SKILLS FOR STUDENTS WHO ARE DEAF-BLIND」
Helen Keller National Center Perkins School for the
Blind Teaching Research
<http://www.tr.wou.edu/dblink/pdf/o&m.pdf>

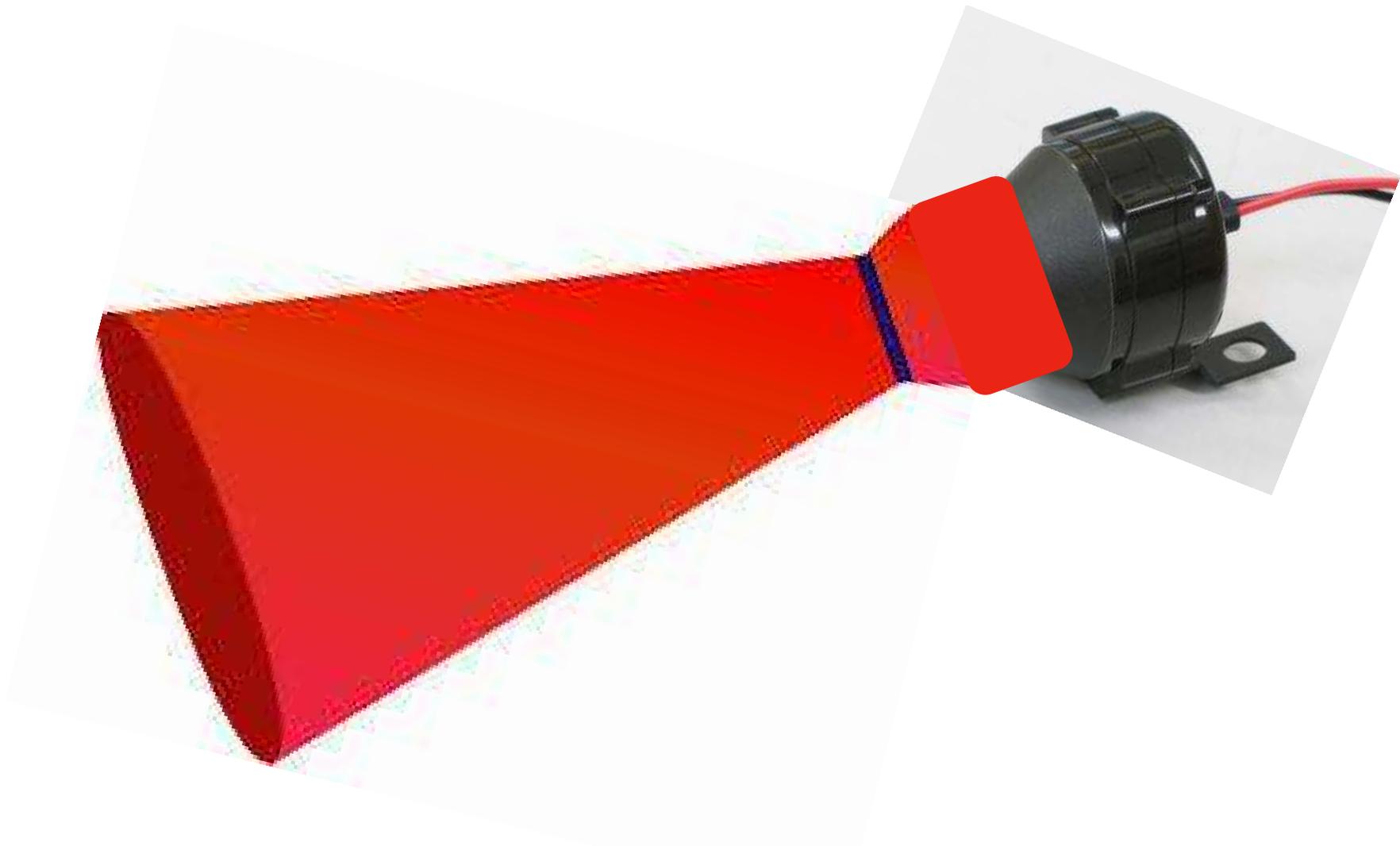
紙に鉛筆で、
歩行ルートを記録する。

音源歩行 ロケーターに向かって歩く

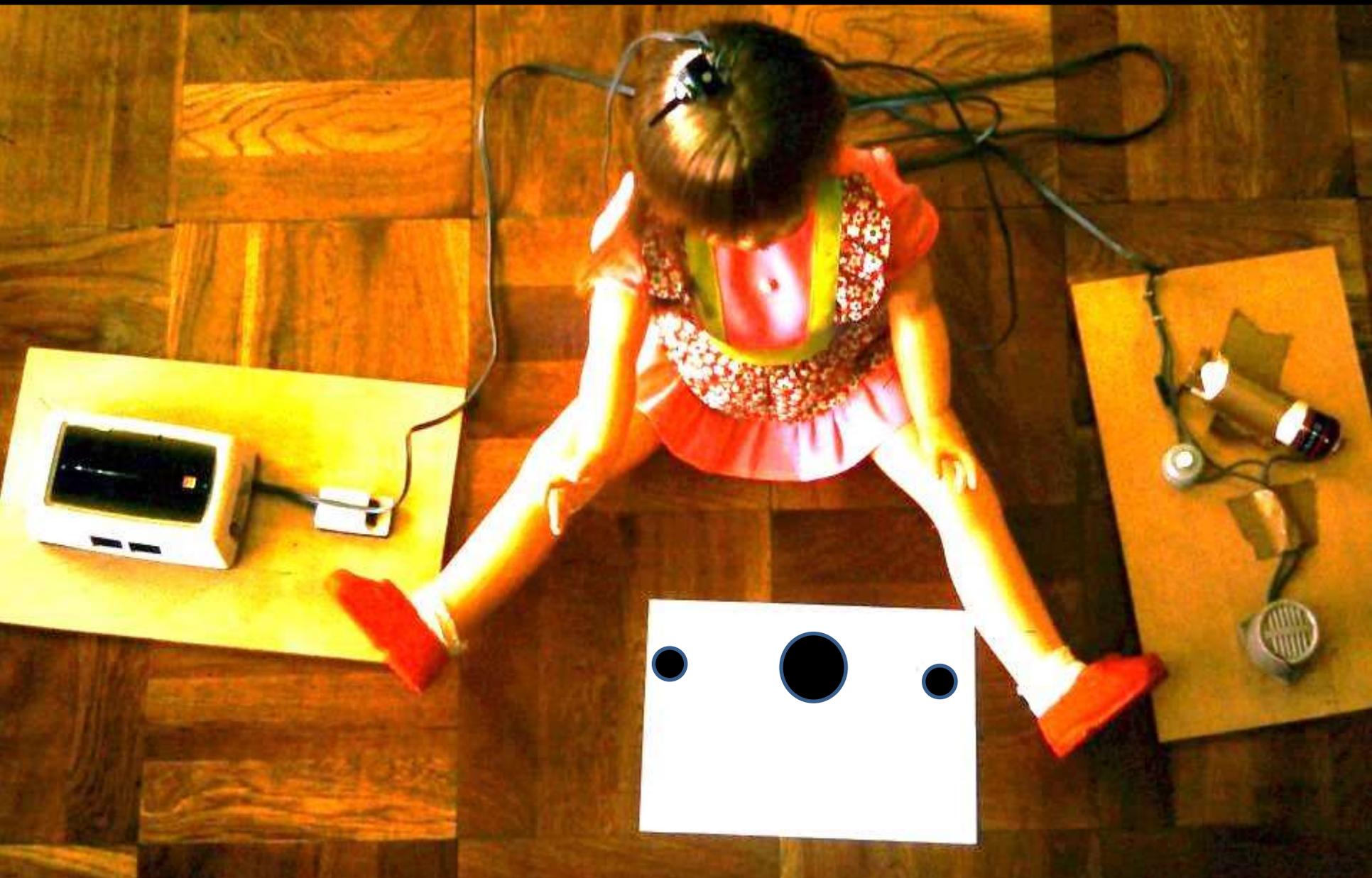


6ボルト自動車用
バックブザーに
電池を装着した
ロケーターの実演

ロケーターに 指向性を メガホン状の筒を取り付ける



音源定位(左右) 位置指示シート



○小学部低学年

段階的歩行指導②

①ボディイメージ

- ・細かな体の部位名
- ・様々な動作
- ・Directionality(相対的方向)の強化

②軌跡

- ・図形的歩行軌跡
- ・交差点における交通音の流れ

③地図

- ・校舎内
- ・学校敷地内
- ・学校周辺

④タッチ テクニック

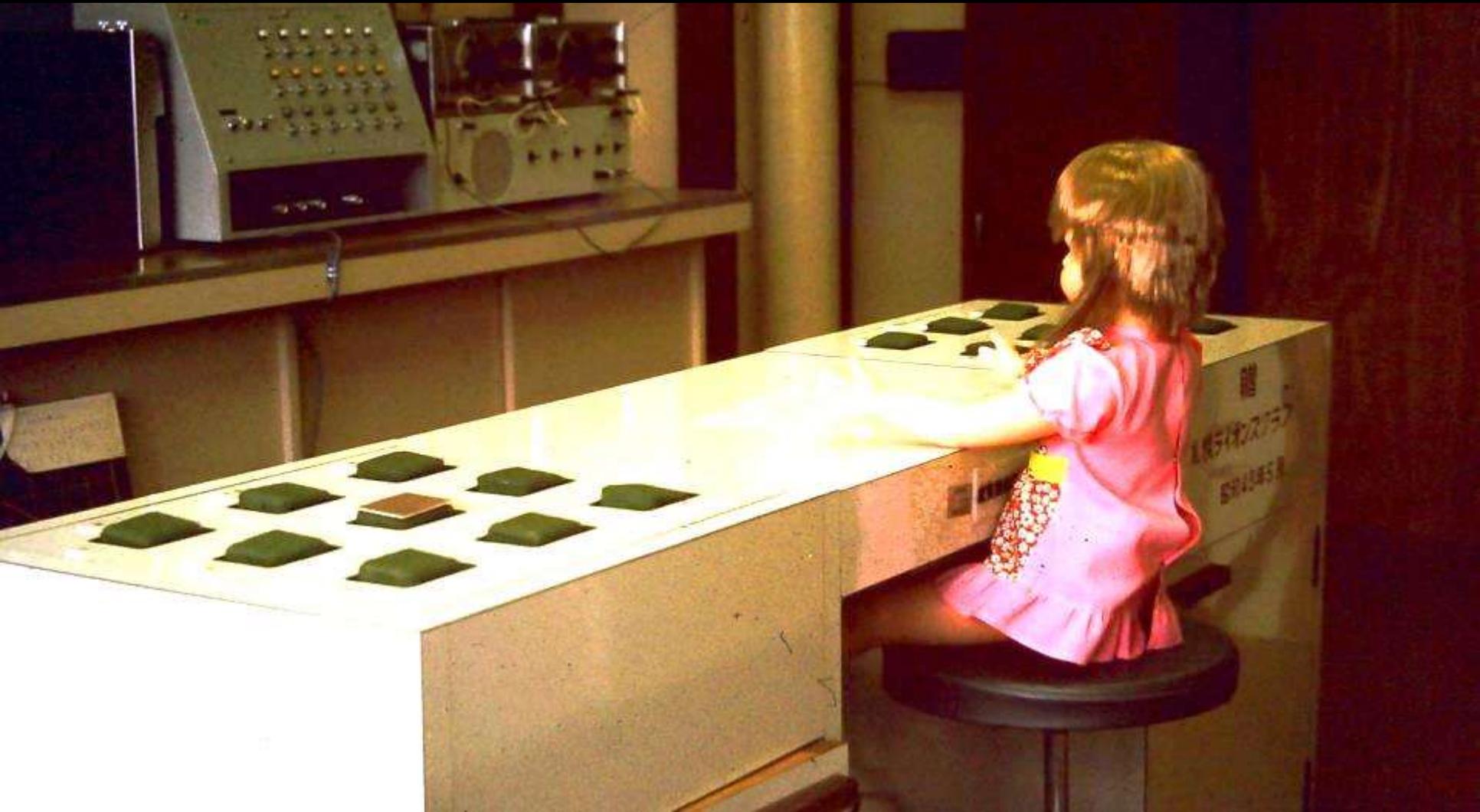
- ・2ポイント タッチ テクニック
- ・ショートケーン・テクニク
- ・ガイドライン・テクニク
- ・スライド・テクニク

⑤ルート歩行(近辺の店への買物: 自立の一步)



音源軌跡指導装置(自校開発)

18個のスピーカーと音源位置が対応して
振動するバイブレーター付き指示器



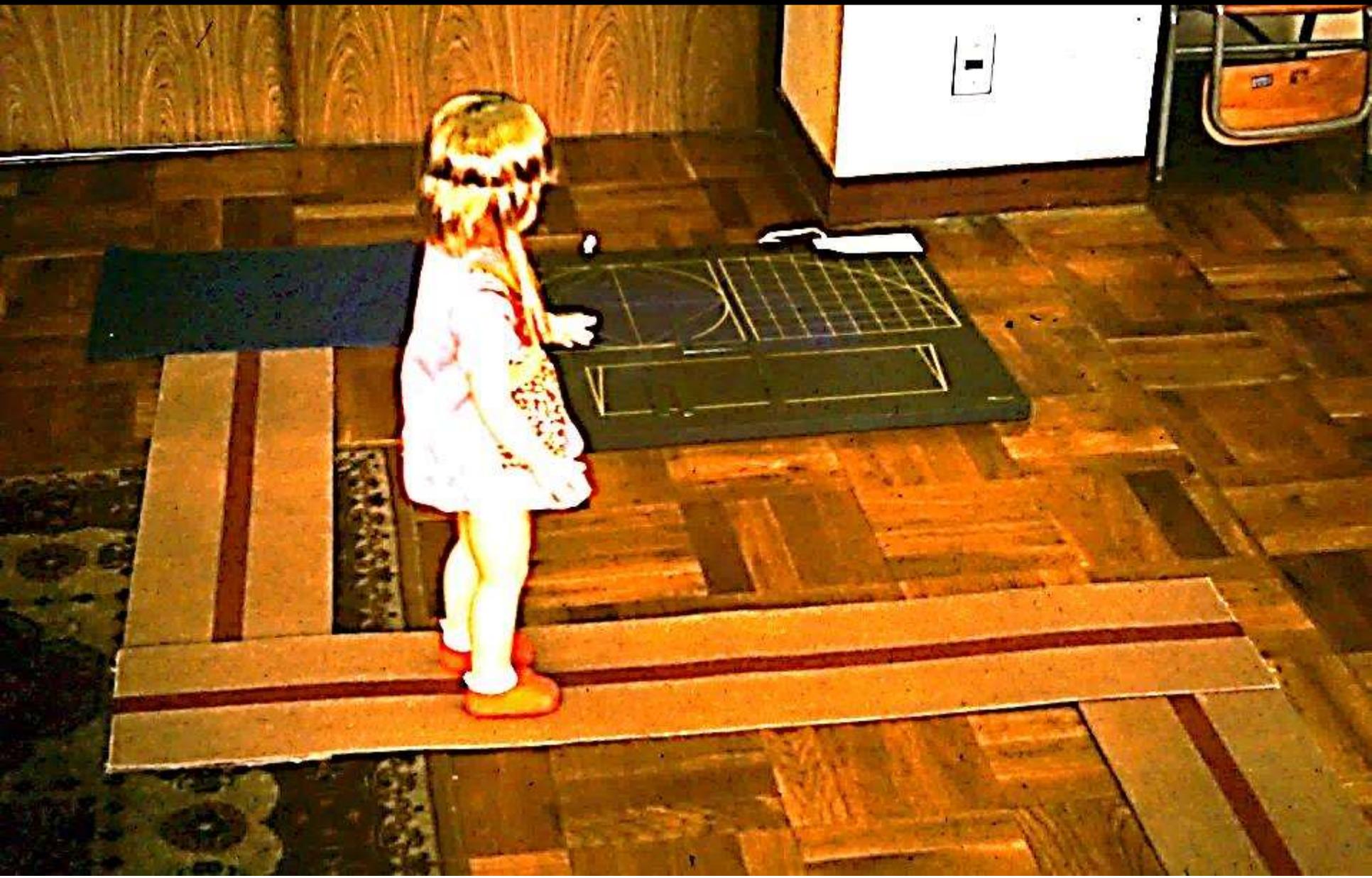
音源定位(5方向・9方向) 位置指示シート



交差点モデル学習



歩行軌跡 ベルト歩行



軌跡指導のフェライト磁石と持参用鉄板



○小学校高学年

①軌跡

- ・図形的歩行軌跡(45°、90°、135°、270°、315°)
- ・太陽・気流を用いた閉鎖図形歩行

②地図歩行

- ・学校周辺

③交通機関の使用

④ルートによる単独帰省

○中学部以上

①居住地読図歩行

②目的歩行

- ・交通機関の使用

白杖

歩行指導の基礎的知識

道路交通法

白杖の携帯義務

第十四条 目が見えない者は、道路を通行するときは、政令で定めるつえを携え、又は政令で定める盲導犬を連れていなければならない。

白杖の遵守義務

第七十一条 二 目が見えない者がつえを携え、若しくは同項の規定に基づく政令で定める盲導犬を連れて通行しているとき、一時停止し、又は徐行して、その通行又は歩行を妨げないようにすること。

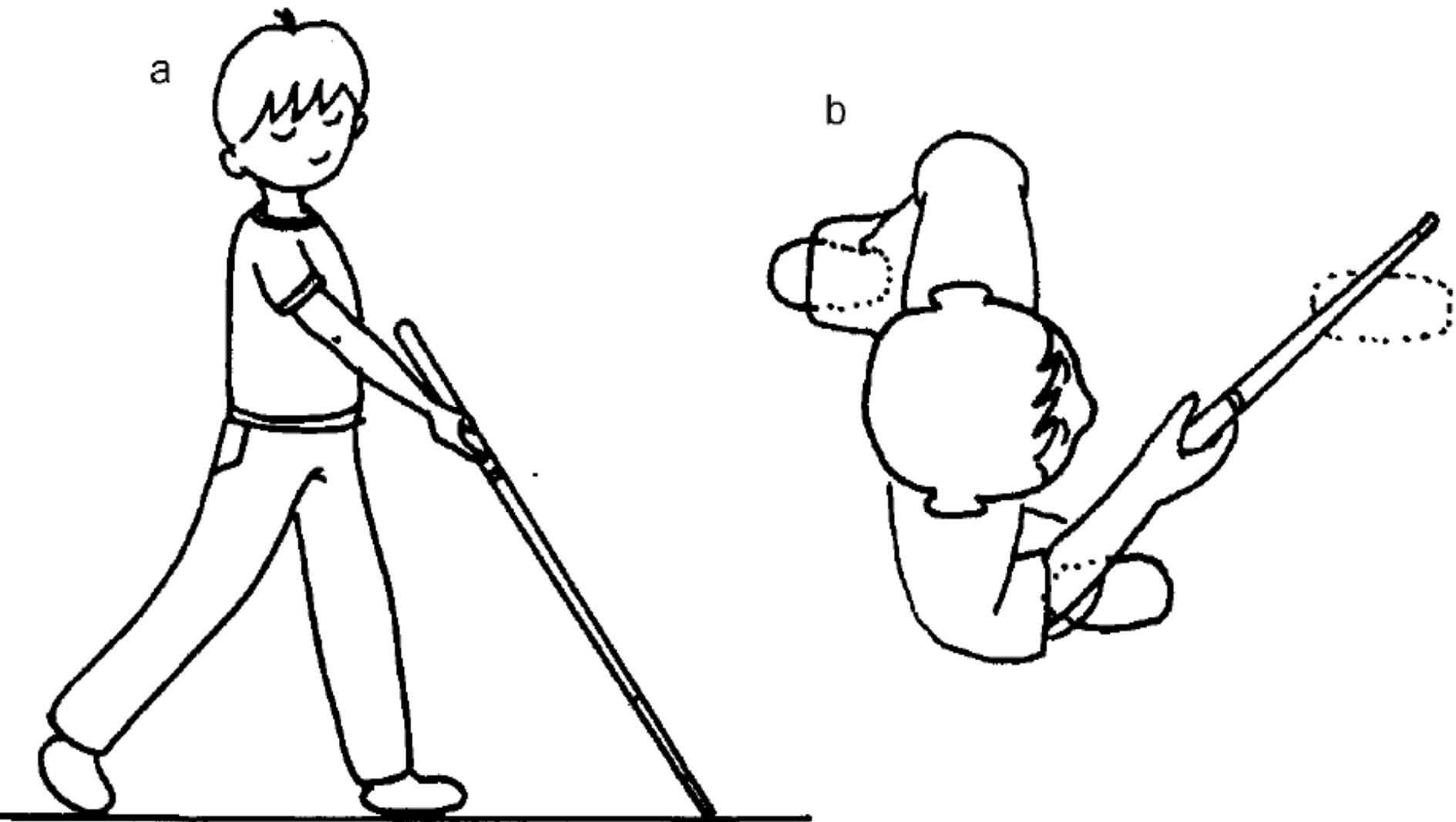
- ①視覚障害者のシンボル機能
- ②路面(凹凸等)情報の入力機能
- ③下方障害物の防御機能

接地角度	白杖の落下力	下方物体の検出	腹部防御の高低	下方物体発見距離
30度	大	小	低	遠
45度	中	中	中	中
60度	小	大	高	近

2点タッチ・テクニック 2Point Touch Technique

- ・白杖の接地他点：2歩前方分
- ・振り幅：肩幅
- ・白杖接地リズム：足の接地リズムと同じリズム
- ・白杖の接地方向：対足側に白杖を接地する
- ・柔らかな手首の操作
- ・処方された白杖：歩行能力、身長、歩幅により長さを決定
- ・閉じた技能としての定着化
- ・白杖入力情報と他感覚入力情報の同時処理化

知的障害者に蹴られた視覚障害生徒



ダイアガナル・テクニックDiagonal Technique

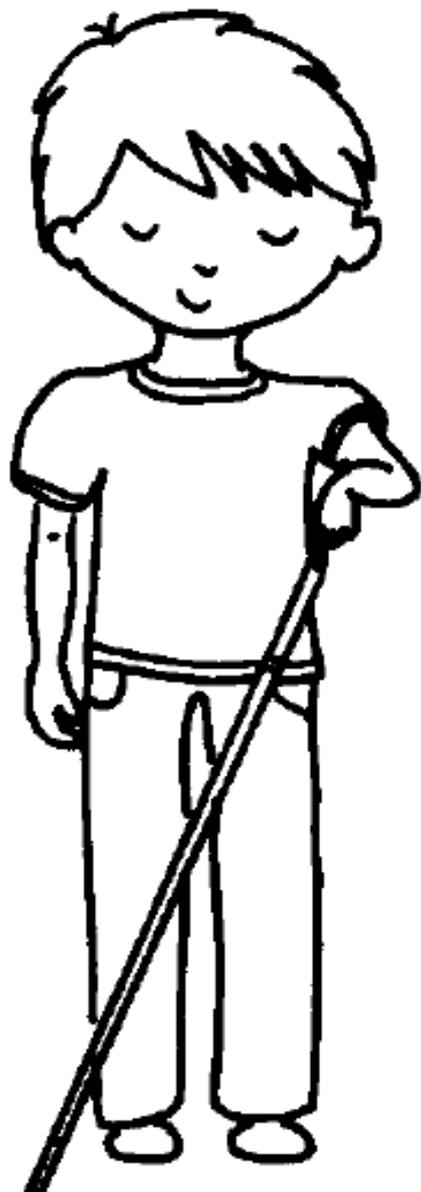
◎使用方法

- ・体の正中線に対して白杖を斜めに操作
手首をかえす型、ペン型、握りバシ型など

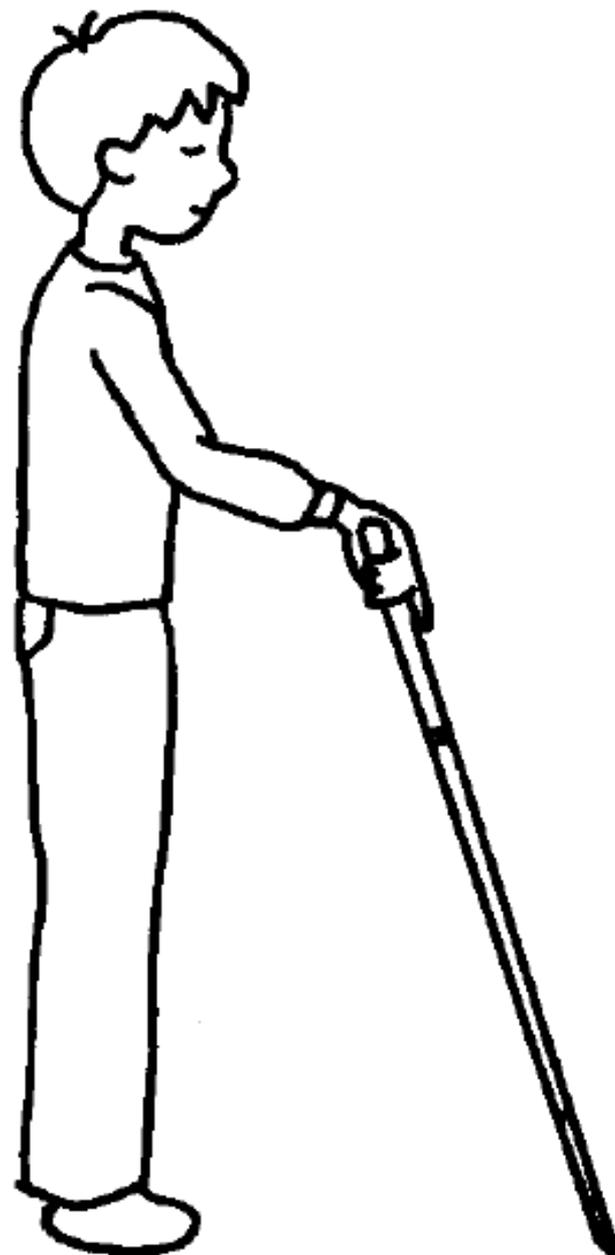
◎使用される情況

- ・物体の認識時、ヒューマンガイド時、段差等の確認時、ガイドラインに沿って歩く時、目的方向の人の流れに沿って歩く時（出入口等）

c



d

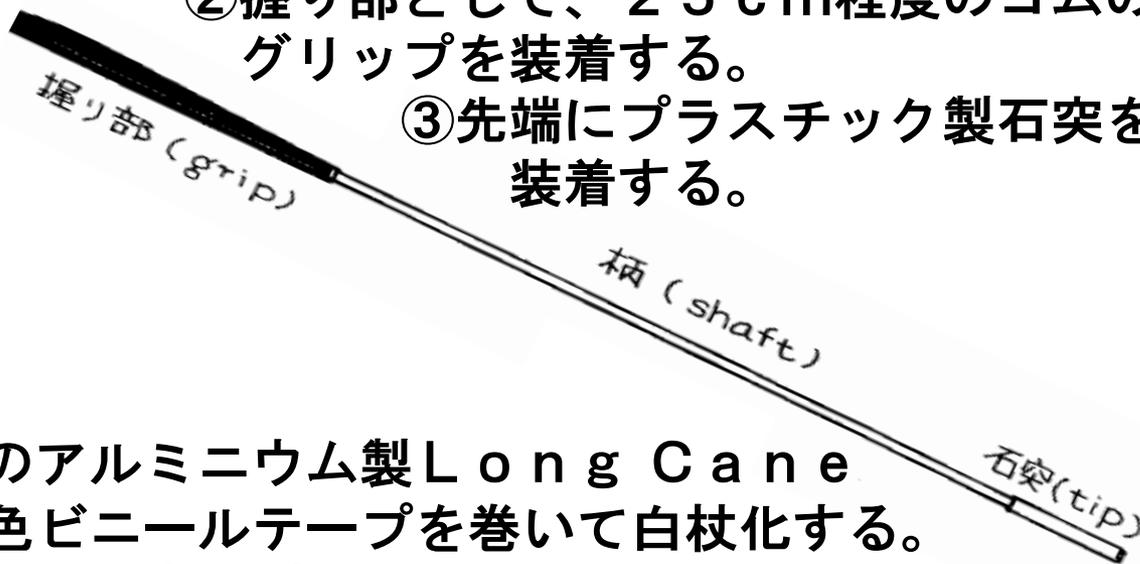




北海道へのLong Caneの 導入 昭和47年1972年

タイガー医療器のアルミポール白杖

- ①直径2cmのアルミニウムポールを児童生徒個々の身長、歩幅、歩行能力等の程度により、長さを処方してきる。
- ②握り部として、25cm程度のゴムのグリップを装着する。
- ③先端にプラスチック製石突を装着する。



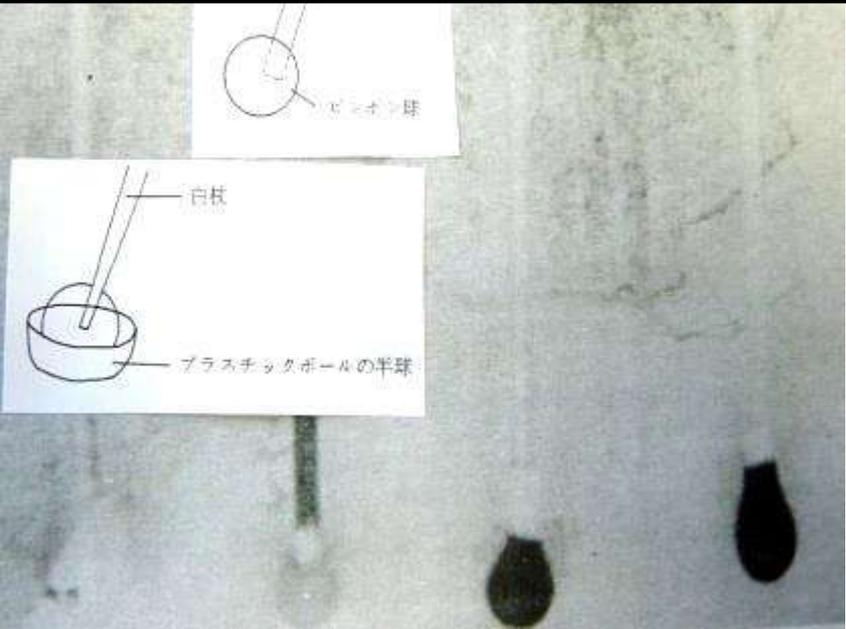
このアルミニウム製Long Cane
に白色ビニールテープを巻いて白杖化する。

アルミニウム製のため、1,000円程
度の安価で手ごろであったが、外力に弱い
難点があった。



3年間
同じ場所の雪道の写真を撮り、
雪道パターンをカテゴリー分析
① 繁華街、住宅地等 ② 車
道・歩道 ③ 時期 ④ 時刻

雪路補助具スノーチップの開発



Journal of Visual Impairment & Blindness
「Winter Traveling in Hokkaido Land
Japan」1985年

1 雪国の盲学校の課題として

1年の三分の一を雪とともに生活しなければならない北海道だけでなく、雪国といわれる本州の盲学校においても、児童生徒がその土地で生活できる安全な雪道歩 行の知識と技術をいかに身に付けさせるかが課題となっている。

2 スノーチップの開発と雪道パタンの抽出

私は、安全な雪道の歩行を児童生徒に確保させる目的で、次の2 点について研究した。

(1) スノーチップの開発

軟らかい雪の中に、白杖がズブズブ突き刺さらないようなアタッチメントを開発するため、石付にプラスチックボールやピンポン球など色々な物を付けてみた。

その結果、理科の実験で使うゴムスポイトが、雪道路面条の情報を的確に捕らえることが分かった。このゴムスポイトを視覚障害者生活用具専門店ジオム社の畑岸社長がスノーチップと名付け同社で取り扱ってくれている。

(2) 雪道パターンの抽出

3 年間に渡り、同じ場所の雪道を継時的に写真で記録し、それに基づいて降雪時期を3 期に分けた。

○降雪初期

太陽熱や車の交通によって、アスファルトなどの路面が出るが、道路の両端にはシャーベット状の雪が残る。

○本格的降雪期

歩行者が通り抜けるための出入り口を持つ交差点パターンや、車道と歩道を隔てる道路パターンなど特有のパターンを呈する。

○融雪期

凍結した歩行路面と、アスファルトが露出した車道の組み合わせが基本になる。

スノーチップと盲児の防寒具

(北海道函館盲学校 校長室情報No.149 平成12年12月7日 No.149)

私は、昭和45年に北海道札幌盲学校に赴任以来、札幌地区で子どもたちの歩行指導などに携わってまいりました。当時は、まだ雪道の白杖歩行に関する技術なども十分に開発されていませんでした。このため、No.53(下の囲み内容)でお伝えしたように、旭川市や金沢市、豪雪で有名な高田市にも出向いて実験を重ねて研究を進めてまいりました。この時に、雪道の独特なパターン抽出とともに、子どもたちが使用する防寒具などについても工夫をしてまいりましたので、その内容をお伝えします。

1 帽子について

視覚からの情報入手が十分に行えない場合、聴覚や皮膚などからの情報に頼るしかありません。雪道では、自動車の車輪と路面との摩擦で生じる音情報が格段に低下し、車の交通音が得にくい状況が常となります。降雪時には、雪の吸音効果も付加されさらに得にくい状況になります。したがって、帽子はかぶらない方が多くの聴覚情報などを得ることができます。帽子をかぶる場合は、耳や頬を覆い隠すフード状のものは避け、聴覚情報が得やすいレシーバー型の物を着用の方が安全性が高まります。

2 手袋について

白杖からの情報を手のひらに円滑に伝えるためには、分厚い手袋やボッコ手袋(親指と他の四指の二つの分かれた手袋)は避け、できるだけ薄い手袋を用いることが必要です。

3 靴について

路面変化の情報は足裏から入手します。このため、靴の裏底は滑りにくかつ足裏情報の得やすい、柔軟な軟質ゴム系の靴裏が良いと思っています。またスパイク付きの靴も良いのですが、雪がない時はスパイク部分を取り外さなければ、マスキングノイズ(交通音の把握を邪魔する音)を自ら作り出すことになりますので、路面状況に応じた留意が必要になります。

歩行偏差ベアリングの要因

交差点横断でのディスオリエンテーションの原因は、歩行偏差によるものである。盲児が真っ直ぐにあることができるよう幼児期より留意することが重要である。

①白杖タッピングの方向 白杖保持の腕が外側に開くことによる。白杖保持が右手であれば右、左手であれば左に曲がる。→ ショートケーンTech.体の正面で保持。

②顔の向き 視覚が保持された目を前にすることによる。聞き耳を前にすることにより、顔が向いた方向に曲がる。→ 自覚して、顔と体のゆがみを補正する体操など。

③つま先方向の開き 左右の足のつま先角度の方向が同じでないことから、角度がより開いた方向と逆の方向に曲がる。→ 自覚して、脚全体の力などを付けたり、凹凸のある山坂の上り下り、スクワット運動など。

佐藤選手の身体軸

佐藤智美選手(25)は、関東身体障害者陸上競技選手権大会の視覚障害T13クラス・女子100メートルに出場し、日本記録を0秒01縮め、13秒27で優勝した。佐藤選手は二本松市出身。昨年8月に東邦銀行陸上部に加入。日本選手権は昨年まで3連覇。



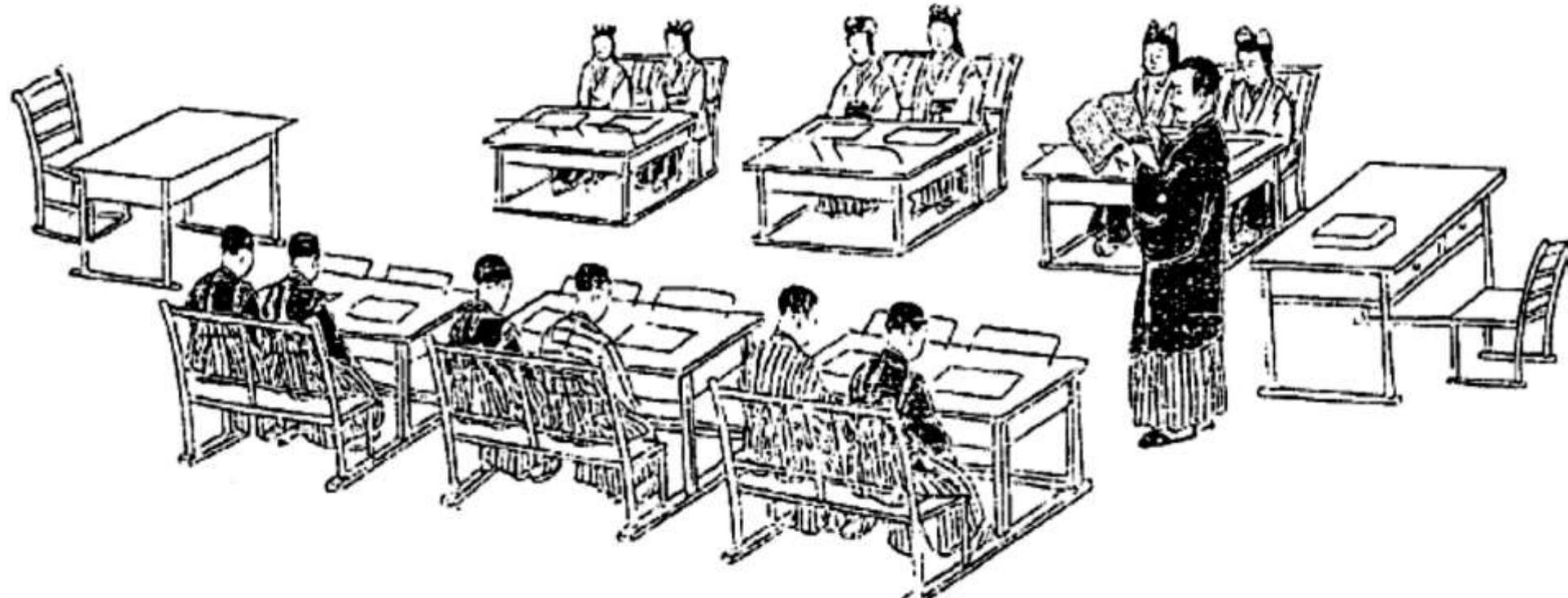
表彰状を示し意欲を語る佐藤

今季は春先から記録を順調に縮めている。

「体幹を鍛えることで体のバランスが安定した。走る方向が左に寄る癖があったが、自分の体を理解し、まっすぐ進めるようになった」

顔の向き(利き耳、利き眼)、姿勢のゆがみ→歩行偏差

盲生教室の整卓列圖(と)



教卓は、教室の前後に

「古河氏盲啞教育法」(京都府立盲学校創立百周年記念事業委員会編)より引用

北海道の事例 専門性の維持・継承？ 歩行指導

A盲学校に赴任した最初の冬の事です。子どもたちの玄関前は初雪が積もり、真っ白でした。ちょうど、そこに白杖を携えた盲児がやってきました。その子の歩行指導の時間でした。

私は、校長室で執務してから、また玄関に行ってみました。すると、さっきの白杖を携えた盲児が、まだ玄関前の雪の中にいて、学校前の道路に出て行くことができません。私は、「どうして、さっきから同じ所をうろうろしているのですか」と先生に聞いてみましたところ、「雪で点字ブロックが隠れてしまって、子どもがそれを探せず、立ち往生しているのです」と話してくれました。このことにより、点字ブロックを頼りにする歩行指導をするあまり、歩行指導の基本である玄関前の環境構成や玄関と道路との位置関係などをきめ細かく指導していなかった実態が明らかになりました。

4 インクルーシブ教育への 対応等

第6 次福島県総合教育計画 平成25年度アクションプラン

○インクルーシブ教育システム構築事業[H25～]

○視覚障がいに応じた教材教具貸与事業[H15～]

視覚障がいのある児童生徒が、小・中学校で「共に学ぶ」ために必要な教材・教具を、市町村教育委員会に貸与する。

○視覚障がい支援講師配置[H15～]

通常学級に在籍する重度視覚障がい児支援のため、専門的な指導ができる教員を配置し、児童生徒が学級や学校、地域の中で共に学び、共に育つことができる環境づくりを進める。

障害者の権利に関する条約

障害者の権利に関する条約は、平成18年12月に国連総会で採択され、平成20年5月に発効しました。日本政府は、障害者基本法の改正、障害者差別解消法の成立など必要な国内法令の整備等を進め、平成25年12月4日に国会で承認され、平成26年1月20日に批准されました。なお、本条約は平成26年2月19日から我が国について効力を生じています。

障害者の権利に関する条約の中で、教育については第24条に記載されており、同条約が求めるインクルーシブ教育システム (inclusive education system、署名時仮訳：包容する教育制度) について、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が一般的な教育制度 (general education system) から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」 (reasonable accommodation) が提供される等が必要とされています。

インクルーシブ教育システム

インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。

小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。

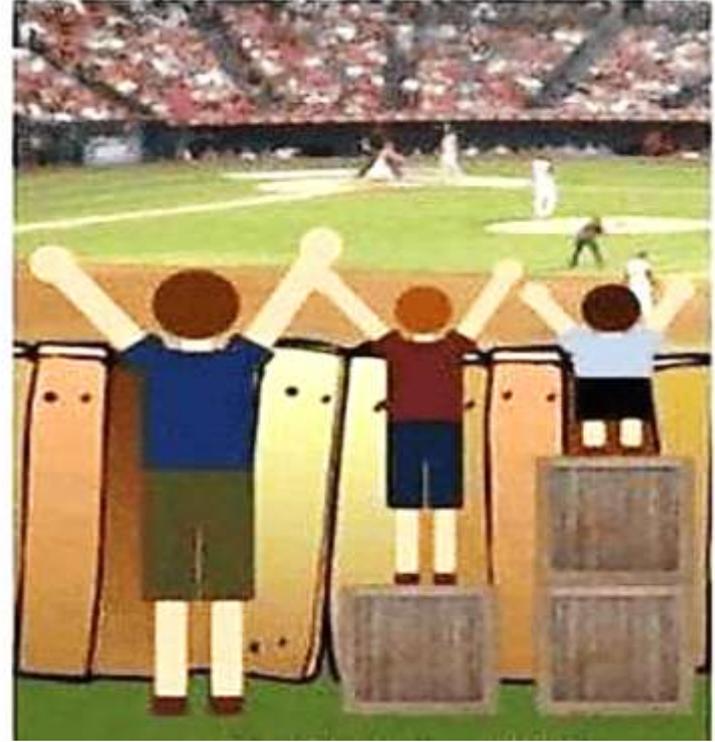
合理的配慮

「障害者の権利に関する条約」第2条の定義において、「合理的配慮」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう」とされている。

「合理的配慮」の決定・提供に当たっては、各学校の設置者及び学校が体制面、財政面をも勘案し、「均衡を失した」又は「過度の」負担について、個別に判断することとなる。各学校の設置者及び学校は、障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶというインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として、「合理的配慮」の提供に努める必要がある。その際、現在必要とされている「合理的配慮」は何か、何を優先して提供する必要があるかなどについて、共通理解を図る必要がある。

※平成28年4月から施行される「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」では、行政機関等について、合理的配慮の提供が具体的な法的義務となっている。

合理的配慮の考え方



台を「配慮」と捉えます。全員に同じ質・量を用意するという意味では、同じ高さの台を用意することが「平等」なのかもしれませんが、「公平」な配慮が共に学ぶための「合理的配慮」となります。共生社会においては「公平」の考え方をみんなで共有する必要があります。

交流及び共同学習

小・中学校等や特別支援学校の学習指導要領等においては、「交流及び共同学習」として、障害のある子供と障害のない子供が活動を共にする機会を積極的に設けるよう示されている。

障害のある子供と障害のない子供が一緒に参加する活動は、相互のふれ合いを通じて豊かな人間性をはぐくむことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があるものと考えられ、「交流及び共同学習」とは、このように両方の側面が一体としてあることをより明確に表したものである。

現在の就学の考え方

22条の3の該当だけで就学先を分けない

22条の3に該当しない
(視覚障がい者等ではない)

22条の3に該当する
(視覚障がい者等である)

小・中学校

「特別支援学校に就学させることが
適当であると認める者」以外の者

特別
支援
学校

障がいがあるが、22条の3
に規定する程度のもの
のうち、当該市町村の
教育委員会が、その者
の教育上必要な支援
の内容、地域における教
育の体制の状況その他
の事情を勘案して、特
別支援学校に就学させ
ることが適当であると
認める者

認定特別支援学校就学者

学校教育法施行令第18条の2「保護者及び視覚障害者等の就学に関する専門的知識を有する者の意見聴取」

統合教育事例(国内最初の盲学校から普通高校)

(13)

道内

11版

昭和50年(1975年) 6月3日

火



「体育は苦手だけど、英語と数学はおもしろくて」——全盲生徒として、初めて普通高校への入学を果たした、札幌市西区琴似八軒の私立北星学園男子高校(松田平太郎校長)一年、岩間勝美君(一五)札幌盲学校出身が、元氣よく高校生活を送っている。当初、予想された様々な問題は、関係者の温かい協力で、ほとんどが解決された。岩間君の普通高校への順応ぶりは、盲人というだけで、普通教育への門を閉ざしてきた、今の教育制度に大きな疑問を投げかけている。

訳しにくい漢字が多いからだ。だが、岩間君の普通高校での生活が、このように円滑に進むには関係者の隠された努力があった。

また、岩間君の教科書、試験問題の点字化、点字板の使いやすい学習機の整備などが、点字翻訳のできる神田先生、外部の各奉仕団体の手によって続けられた。神田先生は「みんなの協力がなかったら、彼のスタートはつまずいたかもしれない」という。

岩間君のこれまでの生活を見守ってきた鈴木先生は「まだまだ、これからだ。授業内容が高度になるにつれ、いろいろ支障がでてくるかもしれない。でも、全盲は普通高校へいけない、という教育制

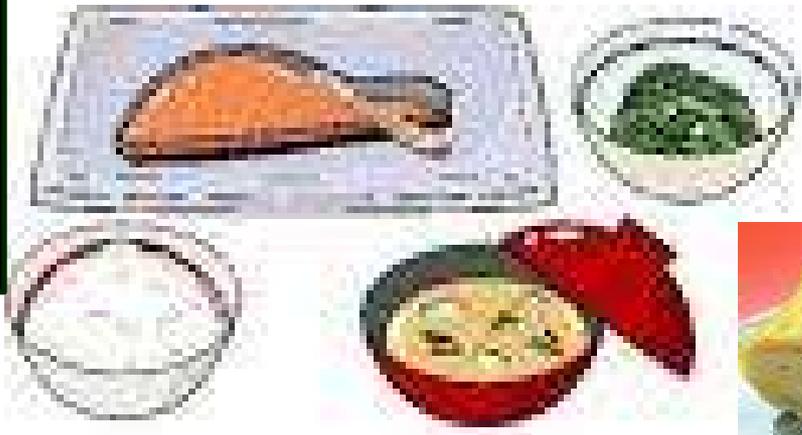
わが国で統合教育が進展をみせたのは、昭和40年代後半のことである。それは盲幼児の統合保育から始まり、小学校へと拡大し、さらに50年代の後半になって、中学校から高等学校へと広まっていった。その経過をみると、次の通りである。

盲幼児では、昭和47年には一挙に6人が私立幼稚園に入園した。小学校では、昭和47年に1人、48年に2人と続き、50年には一挙に6人が公立小学校に入学した。中学校では、昭和46年に1人、53・54年に1人ずつと続き、56年になって公立中学校に5人が入学した。高等学校では、昭和53年に2人あったが、その後中断し、昭和57・58年に1人ずつと続き、59年になって4人が公立高校に入学した。

(中略)

統合教育のもっともおくれているのが、高等学校である。昭和53年に、北海道の北星学園男子高等学校で、盲生徒との統合教育の実践がなされており、また、同年に仙台市立の高等学校に全盲の生徒が入学した例があるが、このあと全盲生の例では、昭和57年、大阪府立高校へ点字受験で合格した例(公立中学校で統合教育を受けていた)がおり、大阪府が点字受験を認めるトップをきった。

朝食



統合教育支援
北星男子高校の
近くのアパートで
1年間の同居生活

弁当



夜間:教材点訳



盲学校から普通高校入学 岩間勝美さん

入学後1年間は、学校のすぐ側にアパートを借りて、盲学校のS先生と自炊生活をしながら通学していました。正直、どうしてこんな生活をしなければならぬのか、辛いと感じたことも何度かありました。でも、この1年間の生活が、じつはその後の私の自立に大きくプラスになっていたことは間違いありません。社会に出た今も同じです。これは、おそらくS先生の、私に対する先を見据えた試みであったと理解しています。

残りの2年間は下宿をしながら、汽車通をしました。盲学校時代から含め、交通機関を利用しての通学は初めての経験です。汽車の乗り降りなど、危険な面はありましたが、こちら歩行面での自立に大いにプラスとなりました。汽車通の最大のメリットは、クラス内外の多くの友達との交友関係が広まったことではないでしょうか。ときには、通学途中で悪い遊びをしたり、今では懐かしい思い出の一つとなっています。

私は、入学直後から卒業後の進路について考えなければなりません。三療以外の仕事に就くには、大学を卒業しなければならなかったからです。私は、受験による進学を目指すより、推薦による進学を選択するのが現実的と考え、定期試験の成績が一定レベルになるよう3年間努力し、高校ではトップの成績を維持して、北星学園大学に推薦で入学して、卒業後、日本赤十字社に就職することが出来ました。

中華民國62年
1973年昭和48年
台灣の統合教育の
視察

この後4回の訪台

統合教育の視点
点字
(教科の能力)
歩行
(白杖操作・意欲)
日常生活行動
(實際の生活力)

我國盲童教育

已臻世界水準

東隣札幌盲校教師鈴木 訪問彰化盲生備極推崇

訪問盲生就讀國小實情兩天後，充滿驚奇，敬佩與羨慕的語氣說：想不到中華民國除了中小學生棒球打得好以外，盲生教育也辦得達到世界水準，日本如要趕上恐怕要費十年的時光，但也不一定就能辦得這麼好。

鈴木重男是看到日人盲者組織「光明之家」(Light House)所發行的「世界盲人字典」記載着中華民國實施盲生就讀國小計劃獲致輝煌的成就，而迢迢由北海道經東京飛到中華民國來參觀訪問的，一切費用均自理。他是本(三)月十九日抵台的，預定三月廿九日返日。

鈴木重男，於廿、廿一日兩天，由教育廳視察歐繼繼、縣府教育局盲生巡迴輔導教師許東發等陪同前往和東、白沙、永興、永靖等四所國小參觀訪問，他在結束彰化縣行程時應記者之邀請發表他的感想。

他很敬佩中華民國政府和民間組織，家長協力動用人力、財力，有組織地全力為殘缺國民謀福利的精神和作法，日本因為大家都忙於經濟發展和個人的享受，似乎忘記了有悲殘的盲人存在。

盲生與一般學生在同一個班級讀書，可以養成完美的人格祛除自卑感和過份的依賴心，因此值得日本效法。

盲生在盲學校就讀，其屬於盲人特有的潛能，當然會逐漸成長，但是其與一般常人所具有的潛能，却會被壓制下去不會成長。

在日本盲人多從事按摩、灸、物理治療、鋼琴調音師、盲校教師等職業，盲人本身討厭這些職業，社會也因此看不起盲人；在中華民國經過盲生就讀國小畢業的學生，有的担任電話接線生，有的在工廠担任零件裝配，食品包裝，養鷄，栽培觀賞用作物，從事手織等工作。種類要比日本多，社會地位也較日本高。因為盲人就業的路寬，社會對盲人的觀感也逐漸在變革。

在日本法令規定，視力在○・一以下要

【彰化特稿】我國盲生就讀國小制度實施以來，教學之成果至為輝煌，榮譽國際稱讚備至，為我國盲生的成就帶來了無限的光芒。

日本北海道札幌盲學校教師鈴木重男，在彰化縣參觀

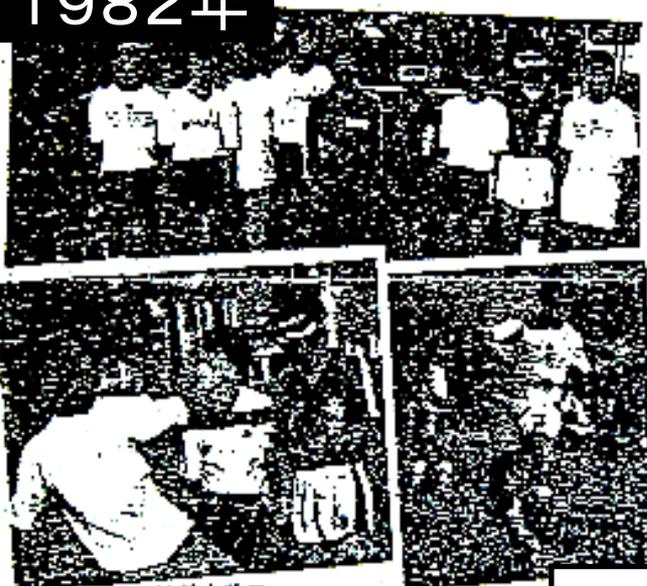
盲学校体育をノーマライゼーションの理念で 1. はじめに

盲学校が人格陶冶・学習の場として一番適しているとの理由で、分離された状態におかれていて、ある時期に突然に社会的に統合されるわけである。体育を指導する者から見て、視覚障害児童生徒は、社会的・職業的に統合されるが、体育的に統合されることは極めて少ない現実がある。ここに現在の盲学校体育が考えなければならない点があると私は考える。

盲学校の体育とは何か、視覚的にハンディキャップを持った児童生徒にそのハンディキャップを埋めるよう補助し、配慮した、晴眼児童生徒と同じ内容の体育である。盲学校の児童生徒に晴眼児童生徒と共通した特殊性ある各連動のイメージを与えたり、各運動特有の技術を習得させる体育である。

盲学校児童・生徒の視覚情報量の少なさ、処理の劣っていることに指導意識を集中するのではなく、配慮してできるところを捜すことに集中しなければならないのではないのでしょうか。連続した視覚的能力のどこかで切られて、盲学校の児童生徒とならざるをえなかった者を受けもつものとして、なおさらその感を強くするのである。

1982年



▲左は鈴木監督

三つも見えなくても
サッカーはできる
高体連に加盟した
北海道高等盲学校

レスリング

1983年

最初の全道大会での勝利

決めた1回戦 フォール勝ち

視力0.03以下 一道高等盲学校の石本選手



7 23

1985年 北海道代表

国体群像

サッカー成年男子監督の鈴木重男さんとともに道高等盲学校のレスリング部を指導している。2回戦で元学生チャンピオンの佐藤新選手(奈良)に敗れたものの、初戦は一分39秒に見事

なフォール勝ち。しかし、競技歴は極めて浅い。

札幌稲高三年のとき始めたのですが、大学(北星学園)では全くやらず昨春の卒業後、再びやり始めたのです。いわば素人です。これといった得意技もな

弱視を「フォール」

く、相手を倒して肩をマットにつけることしか考えません。



○・○六、矯正しても○・三の視力にしかならない。札幌盲学校時代の恩師であ

自らは先天性の白内障で、左目は光がようやくわかる程度。右は裸眼で

る鈴木さんが、一年半ほど前に生徒たちにレスリングを教え始めたのを聞いて手

**福島県の盲児等への
インクルージョン教育推進のため
盲学校の専門性の維持・継承が重要。**

**その盲学校の専門性を
県内盲児等のために開放。**

**県内の盲児等を、長期休業中、
寄宿舎に宿泊させ、
弱視学級、通級指導教室等教員と共に
盲児等の教育的ニーズの対応化。**

1979
(昭和54)年

夏と冬に視覚障害者講習会を主催

北海道高等盲学校で歩行指導やソニックガイドの研究を続けていた鈴木重男教諭ほか三人の教諭が、盲学校の夏・冬休みの期間中に、協会と共同で独自の講習会を計画。協会主催による夏期と冬期の視覚障害者講習会として実現しました。第二回の夏期講習会は、八月七日から十六日までの間に、七日間と十一日間の二コースを設定。講師四人がついた合宿が行われました。宿舎は、協会のプレハブの訓練所で、学力の指導やソニックガイド、モーターセンサーの扱い、生活訓練、さらには墨字や点字解読速度向上など、参加者一人一人に合わせたきめ細かな指導が行われました。特に生活訓練では、大阪の日本ライトハウスから面高歩行指導員が来札するなど、盲導犬の



枠を超えて、視覚障害者一般の生活や行動にまたがる活動へと、一歩を踏み出しました。

また、六月八日の理事会で松岡靖雄会長が辞任。副会長の北澤治氏が会長に就任。小林鉄雄事務局長が七月末日で退任。後任に追分勇氏が就任しました。

宿泊型の特別指導

5 盲学校教員として

盲学校教員としてのミッション使命を自己に問う

非営利組織(学校)とは一人ひとりの人と社会を変える存在である。したがって考えるべきは、いかなるミッションが有効であっていかなるミッションが無効であるかである。そしてミッションは何かである。ミッションの価値は文章の美しさにあるのではない。正しい行動をもたらすことにある。(2頁)

P. F. ドラッカー 「非営利組織の経営」2007ダイヤモンド社

われわれのミッションは何か？ われわれの顧客は誰か？
顧客にとっての価値は何か？ われわれにとっての成果は何か？
われわれの計画は何か？ という五つの問いからなる経営ツールである。すべてが行動につながる。何ごとも行動が伴わなければ意味はない。(3頁)

P. F. ドラッカー 「経営者に贈る5つの質問」 2009ダイヤモンド社

福島県立盲学校

盲

県内の視覚障害者の方々に
対する特別なサービス

+

学校

県民全体への視覚障害の理解・啓発の
推進寄与

=

盲学校

県内盲児等に対する
専門性の高い教育的サービス

宇田三郎先生などの草創期の思いを受け継ぐ

福島ならではの視覚障がい教育の充実・発展に向けて！

福島県立盲学校長

本校は、**視覚障がい教育の専門機関**として、**児童生徒一人一人の夢が叶う教育を目指し、質の高い学校教育が行えるよう努めています**。特に、高等部保健理療科、専攻科理療科では、全教員が生徒の国家試験取得に向けた指導に力を注いでいます。

また、本校は、**小・中学校の通常学級に在籍する視覚障がい児への学習支援のために配置された教員の専門性向上を図るための研修会を県教育委員会と実施したり、視覚障がい児支援のための“のびのび教室サポートクラブ”を県内各地で実施するなど、インクルーシブ教育システムの構築**に向けた取組も積極的に行っています。

本校は、**これからもこれまでの百有余年ある学校教育の蓄積を生かしながら、福島ならではの視覚障がい教育の充実と発展に努めてまいります**。

両親が生まれ、育った故郷、
福島県で、
拙い教育実践を披歴させて頂き、
深く感謝申し上げます。
福島県立盲学校のご発展とともに、
教職員の皆様方のご健勝を、
お祈り申し上げます。
この機会を頂き、感謝申し上げます。